
元神魔王リリカルなのは外伝《デルタソウルダイバーズ》 Episode 3 覚醒

パワード・マウンテン

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

元神魔王リリカルなのは外伝 デルタソウルタイパーズ Episode 3 覚醒

【Nコード】

N6637W

【作者名】

パスワード・マウンテン

【あらすじ】

暗い夜道……歩く……光を求めて……。

一歩一歩……一歩一歩……歩いていく……。

いまだ、見えぬ物語の通路……。

実は道など、無いのかも知れない……。

真実はいまだ、闇に閉ざされたままだ……。

Episode 3 : ストーリー 1 【自分と誰かのユメ】

研究所、通路

カッーン、カッーン

ゼスト隊長

ゼスト

「うん？なんだ……ティード。」

ティード

「自分は、ここが変でしかたがないと……。」

うむ……。

ゼスト

「それは私も……。」

ゼスト！

タッタッタッタ

ゼスト

「今は、隊長だ！」

クイント

「でも」……。」

カツカツ

まあまあ……クイント。

あ〜〜!!

クイント

「メガ〜又、おそ〜い！」

メガ〜又

「クイントが走りるから……。」

それより……。

スッ

む！

ゼスト

「任務中に酒！！」

メガーヌ

「あ、コレは……。」

キュポン

む？

メガーヌ

「“ナージャー”と名乗る者から……。」

スーッ

ゼスト

「……アルコールが無い？」

メガーヌ

「の、ようです。」

うむ……。

ゼスト

「よし、休憩に入る！ティーダも来い！！」

え！？

ティーダ

「自分も……ですか？」

む！

ゼスト

「私の酒が、飲めないと？」

あ、あはは……。

ティータ

「はい……解りました……。」

メガーヌ

「フフツ。」

クイント

「ティータ君……ご愁傷様！」

ティータ

「酷いですよー二人とも……。」

ぷっ

あははははははは……。

コソ

ヴァン……。

リップー

「最後の晚餐を……楽しみな？」

ヒヤッハッ!

Episode 3 : ストーリー 2 【絶望のプロローグ】

貨物列車、屋根

ぶしややややや!!

スバル

「あ……。」

だ……。

ミキヤ

「大丈夫か？スバル……。」

ヒヤーンハッハッハッハ!!

リッパ

「テメーが、大丈夫？かつてーの!!」

ティアナ

「スバル！ミキヤ!!」

ガチャ……。

ティアナ

「くっ……！？」

おっと！

リッパ

「動くなよ？今ある資源は……てな？」

ヒヤーンハッハッハッハ！！

リッパ

「コレでオレさまの〜手元に〜！！
オリジナルのD・シリーズと、パイルバンカーが……。」

コンプリート！！

Episode 3 : ストーリー 3 【生死の狭間のセンコウ】

貨物列車、屋根

ヴァン……。

リップー

「ほんじゃ、用無しの雑魚でも……始末する？」

B - アームレックス！！

ビービー……！！

リップー

「……あん？」

エラー

チッ！

リップー

「メンテの必要ありか……。
ま、こんな雑魚……D・アームズで……。」

ティアナ

「くっ……！」

ガン！ガン！

ウゼ

リッパ！

「あゝむし〜るどお〜……。」

ヴァン！

バチ！バチ！

ティアナ

「な！？」

はあ……。

リップー

「ヤツパ雑魚じゃん……。」

ザッ

スバル

「……………」

あ〜ん？

リップー

「その2か……………」

リボルバーナックル……………！

ギイイイインー！！

ティアナ

「スバル！？」

はあ……………。

リツパー
「おそ。」

バツ

スバル
「え……。」

ヴァン！

ズバツ！

スバル
「ガハア！？」

ドサツ……！！

ティアナ
「スバル……！！」

リップー

「残りも〜」……。」

ガシッ

あ〜ん？

スバル

「い、かせ……！」

う〜ん……。

リップー

「掃除は足元からって、言っし〜」……。」

カチャ……。

スバル

「!？」

死・ん・じゃ・え

ジュン

ブラックデルタピース

「コンプリート」

キイイイイイイイーン!!

Episode 3 : ストーリー4 【墮天からのテンセイ】

貨物列車、屋根

ドクン

よじぢくだ……。

ドクン

よじぢく“オレ達”は……。

ド・ク・ン

一つに……。

ゴオオオオオオオ!!

スバル

「な!？」

ティアナ
「ミキヤが!!」

くっ……!

リッパ―

「何だそのイベント!聞いてないぞ!」

シュゴオオオオオ……。

スバル

「コレは……転送?」

キイン

ブラックデルタピース

キイン

ブルーデルタピース

キーン

レッドデルタピース

コレより“F・テイル”……第2プログラムを実行します。

ゴオツ！

シリーズ01【コクトウ】

ゴオツ！

シリーズ02【トウノ】

ゴオツ！

シリーズ03【エミヤ】

そして、三つのピース……実行します。

元神魔王リリカルなのは外伝

《デルタソウルダイバーズ》

Episode 3 覚醒

Episode 3: ストーリー5【自分のファッションチェック】

貨物列車、屋根

あ〜ねみ

ミヤ

「ふあああ〜……。」「

むじゃむじゃ

リップー

「何だテーマーは！服装もちぐはぐだし……。」「

うん？

ミヤ

「ちぐはぐ？どれどれ……。」「

鏡、トレース・オン！

カシャン！

ティアナ

「鏡が！！」

えーっと

ミヤ

「オレの今の格好は……。」

プジュッ

ミヤの現在の格好について

〔髪 黒髪、赤のメッシュ

顔 めがね

上半身 赤と白のツートンツーシャッ

下半身 青の学ラン

ちびっく、長すぎのローンを羽織っている……真っ黒]

ピュウウウウ……。

ミヤ

「見事に、ちぐはぐだ……。」

はあ……。

おいこら……！

ミヤ

「あん？なに……。」

リップー

「オレさまを無視したろ……。」

ミヤ

「うん。」

ギリギリ

ブ
ッ
コ
ロ
サ
ー
ー
...

Episode 3…ストーリー6【どっちが好きなデシヨ〜】

貨物列車、屋根

ガタンゴトン

ミヤ

「突然だが、スバル!!」

は、はい!?

ミヤ

「マーボーとアイス……。
どっちがン〜マイ?」

ヒュウウウウ……。

スバル

「は?」

いや!

ミヤ

「コロコロとどめて置くだけでいい……」

うむ……。

あの～

ミヤ

「はい？」

ティアナ

「ミキヤさん……でしょうか？」

そだよー

ミヤ

「元だけど……。」

はあ

ティアナ

「元ですか……。」

うむ

ミヤ

「元だ!!」

テメー……。

ヴウウン

リッパ―

「無視すんなつつつてるだろおおおおお!!」

ヴァン!

スッ

リッパ―

「な!？」

カチャ……。

魔眼、解放！

ミヤ

「ついでに七夜刀も、トレース・オン！」

カシャン！

ババツ

スバル

「な……！」

ティアナ

「早い！」

フツ

ミヤ

「キサマ相手に、加減は要らないな……！」

ズバツ！

リップー

「が！？」

ポト！

ヒッ！？

リップー

「オレさまの、腕……！！？」

ミヤ

「子供は、見ちゃらめ！」

ぼふん！

ケホケホ

スバル

「なにこれ〜！？」

ティアナ

「ケホ、煙幕……！」

ミヤ

「げほげほ……！」

あんたもかよ！？

Episode 3：ストーリー7【10年越しのサイカイ】

貨物列車、屋根

バツ

リップー

「やってられっか〜〜!!」

あゝ!

スバル

「逃げた!?!」

ミヤ

「流石、早いな……!!」

きゅぴん

ティアナ

「全然、カッコ良くないわよ?」

え！？

ミヤ

「マジでー！」

キイイン……。

なのは

「三人と……も……。」

フェイト

「ぶじ……？」

あ！

スバル

「はい！」

ティアナ

「無事ですー！」

いや〜

ミヤ

「参ったぜ！リッパの野郎の強襲だもん！！」

なのは

「……………」

フェイト

「……………」

誰？

うおおおおおおい！？

ミヤ

「……は、面影あつだろ〜……！！」

ほらほら……！

フェイト

「うん？解る？なのは……………」

なのは

「うーん……私も……。」

うがあああああああ！！

ミヤ

「ジロウ！シキ！ミキヤ！！」

あ……。

フェイト

「ジロウに、シキに、ミキヤか……！！」

なのは

「確かに、言われてみれば……。」

フェイト

「うん！なんか、のどの……。」

なのは

「魚の骨が取れたみたいに……。」

シグナム

「シキが生きてたって!!」

ヴィータ

「ほん……とっつ……か。」

あははははははははは……

ミヤ

「似合わない奴らの、追加ドングリ……!!」

あ……っはっはっはっはっはっはっは……!!

シグナム

「……………」

ヴィータ

「……………」

間違いなく本人だ!!

Episode 3: ストーリー9 【突入のシレイシツ】

機動六課、司令部

ダダダダダダ……。

はやて

「何や騒がしいな〜〜!!」

ですね？

ツヴァイ

「迷惑もいい所です!!」

プシュー

ぐっもーにーん!!

ミヤ

「10年越しの、挨拶に来たぜ〜〜!!」

な、な、な！

ツヴァイ

「誰ですか！貴方は！？」

あん？

ミヤ

「何だ？この“アイン”を、ちっこくしたようなの……。」

あ！

ミヤ

「お前、リインフォースだろ！！」

ツヴァイ

「え！な、なにを！？」

ミヤ

「アイン姉ちゃんから……。」

「初代”つったほづがいい？”」

な！？

ツヴァイ

「知ってるんですか！！」

ミヤ

「知ってるもなにも……ねえ。」

それより！！

バン！

はやて

「あんたは、誰や！！」

ギロ

ミヤ

「あゝはいはい、元シキのミヤさんですよ……」。

ハン！

はやて

「その元シキの……ミヤ……。」

ん？

はやて

「あんた今何て！？」

ミヤ

「だからシキだよ……。」

トウノ・シキ！元だけど……。」

はやて

「シ……。」

ミヤ

「あん？」

バツ

シキ~~~~~!!!

機動六課、通路

カツカツ

ミヤ

「いいのか？司令室、抜け出してー。」

はちて

「いいんやーもっ、お厚いはんやし……。」

カツカツ

コレを……。

解った……。

あ！

ミヤ

「シャマルとザファイラ!」

おい!

ザファイラ

「む?」

シャマル

「あは……」

よし!

シャマル

「あの……はさて、こちらの方は……」

はさて

「元々ウノ・シキのミヤサ!」

……何か、いいらしい。」

そっですか!

シャマル

「私がシャマル、こちらが……ザフィーラ……？」

ザフィーラ

「ザフィーラだ……？」

ミヤ

「元シキだ……！」

はやて

「なんやねん……元栓みたいな……。
30点……！」

フフッ

ミヤ

「お笑いの道は、厳しいな……。」

フフン……！

はやて

「当たり前や……！」

なにいいいいいいいいいい!!?

ミヤ

「今回のタメは、長かったな……。」

はやて

「まあまあや!~!」

Episode 3: ストーリー11【食堂のザフィーラ】

機動六課、食堂

はは〜ん！

ミヤ

「めしめし〜〜！〜！」

はあ……。

なのは

「かわらないね？」

フフッ

ミヤ

「からわない存在……。
それが、シシロウキ・ミヤ〜！」

スパン！

ミヤ

「あべし!?!」

シグナム

「うむ!この感触……間違いなくシキだ!」

つつ〜……。

ミヤ

「10年前も言ったけど、バシバシ叩くなよ〜……。」

フン!

シグナム

「10年前にも言ったが、お前はその程度が丁度いい!」

チエツ……。

ミヤ

「シグナムと“ちゅ〜”した時とか〜。
あん時は良かったのにな〜……。」「

ピシッ

ミヤ

「へ？」

シグナム

「あ！バカ！？」

ゴオオオオオオオ……………。

なのは

「したんだ……………」

フェイト

「した……………」

はやて

「シグナム……………!？」

ヴィータ

「ヤッパあの時か!?!」

「うっ……なのはさん……」。

エリオ

「あ！スバルさんは……」。

キャラ

「憧れだったね？」

ですが現実とは、かくも悲しいものです……。

ツヴァイ

「はい！悲しいものです……」。

しかし……。

もっきゅもっきゅ

ハンバーガーやおにぎり……。

もっきゅもっきゅ

サンドイッチが……。

もっきゅもっきゅ

無いのは……。

ツヴァイ

「……。」

スバル

「……。」

ティアナ

「……。」

エリオ

「……。」

キャロ

「……。」

あんた誰!?

私？私は……。

アイン

「リインフォース・アインです!!」

くう〜……。。

クロノ

「僕のドラゴンオーブが……。。」

フェイト

「クロノ……それにお母さん!？」

はあ……。

ミヤ

「プレシア……はしゃぎ過ぎる……!」

まあ……。

プレシア

「ミキヤも、人の事が言えないのではなくて?」

今はミヤですよ?プレシア……。

プレシア

「あら?そうだったかしら……リニス。」

リニス

「はい……アゝハゝ！」

え！？

フェイト

「リニスまで！！！」

フウ……。

ミヤ

「高笑いとか、アゝハゝとか……。
何で、こんなに俗っぽく……。」

バツ

プレシア

「それは！」

ザッ

リニス
「ミヤが！」

悪い！！

ビシッ

ミヤ
「……………」。

結局そこか……………」。

Episode 3 : ストーリー14 「雷の魔女のハーフェバイス」

機動六課、水上練習場

は、はなせ〜〜!!

クロノ

「くっ！いい加減に!？」

ジタバタ!!

オーッホッホッホッホッホッホ〜!!

プレシア

「無駄よ!その“マグダラ”の布は、男では破られない!!」

ミヤ

「そっいや、プレシアに何やったっけ？」

ジュン

プレシアのハーフデバイスについて

「 ルールブレイカー

宝具搭載型ハーフデバイス

どんな契約もコレ一本！

プスツと一刺し！強制解除！！

デバイスの解除も可能

マグダラ

宝具搭載型ハーフデバイス

聖骸布、相手の拘束が可能！

男なら脱出は無理！！

サンダーキューブ

エレメントキューブの一種

雷系の魔法が入っている！！」

ミヤ

「げ………！！」

ピピッ

サンダーキューブについて

「 ライトニング・ボルト ”

敵全体に対して帯状の雷撃を放出。

“プリズミック・ミサイル”
虹色のカラフルな追尾性の光の矢を連続で放ち攻撃する魔法。相手を混乱状態に陥らせる。

“ブルーティッシュボルト”
ライトニング・ボルトからの派生する大魔法。
雷雲より龍の姿をした稲妻を呼び出し、敵を襲う。

“グラビティプレス”
プリズミック・ミサイルから派生する大魔法。
深淵に眠りし闇の雷が超重力を持ちて敵を押し潰す。

“キュア・プラムス”
対象の体力を回復させる。

“スペル・レインフォース”
味方の足元に黄色の円陣を生み出すことで、魔法力を倍にする補助魔法。

“プリペイド・ソーサリー”
敵全体の呪文詠唱を封じる補助魔法。

“リフレクト・ソーサリー”

味方の足元に緑の円陣を生み出すことによって、全員を敵の魔法から反射できる状態にする。

以上」

ミヤ

「ちよっ！？超重力……！」

タマがあああああ！僕のタマがあああああ！！

オーツホツホツホツホツホッホ……！マタマタなんて………下品よ……！！

ミヤ

「……………」

最悪だ……………。

Episode 3：ストーリー15【その頃の「コンテ」】

研究所、治療施設

リッパ―

「機械のうで〜つ〜のも、悪くないね〜……。」「

ブシュ！

ガバツ！？

ドサツ………！

ヒヤーツハツハツハツハ！！

リッパ―

「治してくれて、ありがとう〜〜！！
お礼に死をくれてやる〜〜！！！」

な？ジェイル？

ジエイル

「キ、キサマ……！契約とは……！！」

あ〜ん？

リッパ―

「約束つてモンは〜……破るタメにあんだよ〜……。知らなかった？」

ジエイル

「ガバツ！ガバツ！」

ビチャ！ビチャ！

あ〜……。

リッパ―

「も〜ダメだねえ……」「りゃ。」

まっいいか！

リッパ―

「ほんじゃ〜体に、きおつけてねえ〜……なんちてー!」

ヒヤーツハツハツハツハ!

タツタツタツタ……。

ギリ……。

ジェイル

「わ、私は……こんなところだ……。」

カツーンカツーンカツーン……。

ザッ

ジェイル

「お、お前は……?」

酒は飲んでいないな?

ジェイル

「さ、酒？」

フツ

飲んでいないようだな……。

バッ

では……。

ナージャー

「この“セブン・ナージャー”と……。」

F・テイルだ！！

Episode 3：ストーリー16【はじめまして？のアイサツ】

ジェイル研究所、司令部

ガヤガヤ

ウエンディ

「なんなんスカ〜！急に呼び出して〜！」

ノーヴェ

「しらね〜……チンク姉は〜……。」

チンク

「さあな？私は何も……。」

バッ

カッーンカッーン……。

あ！

ナージャー
「……………」。

シーン……………」。

誰？

フム

ナージャー

「こつすれば、解るはずだ……………」。

バサアアアアアアア！！

ハア—ッハッハッハッハッハア！！

ドクター！？

はあ……………」。

ナージャー

「まっご……。」

ナージャー

「今の世の中……この程度が丁度いい!!」

ピュッ

セブン・ナージャーについて

「ミキヤが発見!でもリツパーに全殺し!!」

で!

シリーズ05【アーチャー】

シリーズ06【アベンジャー】

シリーズ07【ナナヤ】

が、第2プログラムのF・テイル!!

名前の由来はナナヤを英語。

セブンナイト、後はアーチャーとアベンジャーを、組み合わせ出来
上がりー！」

しかし……。

ナージャー

「死んでから、強大な力が手にはいるとは……！」

ピピッ

セブン・ナージャーの現在の格好

〔髪 黒髪に白のメッシュ

頭 紅いバンダナ

顔 茶色の肌、体にウニヨウニヨ

上半身 青い学ランに、肩から腕にかけてボロボロの紅い聖骸布

下半身 やはり青の学ランズボンに、腰からボロボロの紅い聖骸布

あとは、ジェイルのトレードマークの白衣

以上、ナージャーからだ!!」

メガーヌ

「何回死ぬんですの？貴方は……。」

クイント

「チョツ……ぷっ……ウケる……。」

ゼスト

「クイント……。」

あんまり人様を、からかうんじゃないんだな？コレが!!」

くっ……!!

ナージャー

「貴様らだつて死んだろ!!」

ウーノ

「……。」

「トーレ
……。」

「クアットロ
……。」

また、知らない人が増えた……。

ジェイル研究所、カプセルルーム

ウーノ

「何ですか？ドクター……。
このカプセル……。」

うん？

ナージャー

「ま、料理の下準備……かな？」

ウーノ

「？」

ピッ

ナージャー

「ドゥーエか？私だ！例のモノは届いているな？」

……うん……うん……フォルティル飲ませた……うん……。」

なに!？

ナージャー

「死んでいた!リッパ―来て殺した!!

……もう一度聞くが、飲ませたか?……よし!予定を繰り上げる、
戻れ!!

うん?

ナージャー

「あんな脳ミソ、ほっておけ!

もう奴らなど、どつでもいい!!

……ああ……じゃっ、まっっている。」

ピッ

ウーノ

「ドクター……。」

うん?

ナージャー

「強大な力と、ベースである“コイツ”のせいだ……。」

今の私は、心穏やかだ。」

ウーノ

「え!？」

ただ……。

ウーノ

「ただ？」

ナージャー

「敵ならば……。」

どんな存在でもコロセル

ゾクッ!?

ウーノ

「な……!」

おっと!

ナージャー

「今のは失言だった……忘れてくれ。」

フウ……。

ウーノ

（ドクターは、前のように全てを憎んでいるように……見えなくなった。）

ただ

チラッ

ナージャー

「ふふふん！」

ウーノ

（敵と認識したモノは、容赦無く……ナンバーズだけではなく、コノ私さえも……。）

ピピッ

ナージャー

「お？あくぞ！成功だ！！」

プシュー

う……む……。

むく

ナージャー

「おはようございます！

最終基本型のアストレイギュラーズ、シリーズ15……。」

な！？き、貴様は……！！

レジアス

Episode 3：ストーリー19【食堂のオーダーダ

ジエイル研究所、食堂

ガヤガヤ

アギト

「ゼストの旦那！持って来たぜ！！」

カチャ

ゼスト

「ああ……すまないな？アギト……。」

うゝむ……。

レジラス

「コレで私を含めて、全員死んだ……と言っことか……。」

ま！

クイント

「いいんじゃない？生きてるんだし……。」

レジアス

「それは、かなり矛盾してないか？」

ママ……！！

メガーヌ

「はいはい、ルーテシア。」

ルーテシア

「ご飯たべよ？」

メガーヌ

「解りましたですよ！」

しかし……。

ゼスト

「メガーヌ……口調がかなり、おかしくったな？コレが！」

アラ？

メガーヌ

「貴方だって、かなりオカシイ……ですの！」

フフツ

ナージャー

「どうした？ウーノ……。」

ウーノ

「いえ……！」

あせあせ

フツ

ナージャー

「作るか？子供……。」

え？

ウーノ

「あ……はい！」

じゅ……。

ドゥーエ

「久々に帰ってきたら……。」

どうなってるの!?

Episode 3：ストーリー20【模擬戦のレジアス】

ジェイル研究所、訓練施設

ザッ

ノーヴエ

「行くぜ？オッサン！！」

遠慮はいらん……。

レジアス

「全力で、かかってくるがいい！！」

数時間前、個室

何！？

レジアス

「コノ私にもデバイスが！！」

む？

ナージャー

「デバイスとはチョット違つが……ま、そう言事だ！！」

私も貰つたが……。

ゼスト

「このハーフデバイス……従来のデバイスとは、全く異なる！！」

フウ……。

クイント

「まさか……この私が彼処まで手こずるなんて……」。

フフツ

メガーヌ

「でも、それだけの力を秘めているわ？」

アギト

「あたい何か、ハエみたいに邪魔だから、持てって言われたし！！」

ギロ

ナージャー

「だが、それで人間大になれたし、魔力消費も……。」

プチッ

アギト

「我焦がれ……。」

わっわっわ!?

ナージャー

「こんな所で詠唱するな!

私が悪かった!悪かったから!」

ペコペコ

ゼスト

「アギト……ナージャーもここまで、あやまっているし……。
許してやってほしいんだな?コレが。」

チッ！

アギト

「ゼストの旦那に、礼をいつときな!!」

ナージャー

「ありがとう〜ゼスト〜!!」

ガシッ

む……。

ゼスト

「礼はいいから、離れてくれないか？」

気持ち悪い

ナージャー

「!？」

ぶしやややや!!

ゲハアアア!!

Episode 3：ストーリー21【騎士のゼスト】

数時間前、個室

ピピッ

ゼストのハーフデバイス

「“ゲイボルク”

宝具搭載型ハーフデバイス

心臓を確実に刺したり、ぶん投げたり出来る

“D-レックス・アゲイン”

エレメント搭載型ハーフデバイス

D-レックスを純粋にカスタマイズ、4つの属性が試験的に入っている」

ゼスト

「コレが私のハーフデバイス……。」

ピピッ

D-レックス・アゲインについて

「“ドラゴシヨット”

光の弾丸を足から放つ

“タイガーフィート”

雷のダツシュ蹴り

“ゲンブエンブ”

氷を纏ったカカト落とし

“スザクテンシヨウ”

炎を放つ飛び膝蹴り

“コード・ゲキリン”

リミッター解除後、全ての技を使用

以上

ゼスト

「なかなかの、もんなんだなコレが!!」

Episode 3：ストーリー22【拳闘のクイント】

数時間前、個室

クイント

「次は私ね？」

ピピッ

クイントのハーフデバイス

「“パイルバンカー・テリー” エレメント搭載型ハーフデバイス
ナックルガード、見た目によらず強力！！

D-レックスやD-アームズを接続、共に使用するとリミッターが
解除される

リボルバーナックルのプロトタイプとも言われる

“D-レックス・ブースト”

D-レックスをブースターとして改造使用、武器は無し！！」

クイント

「フフッ！スツゴいんだから！！」

ピピッ

パイルバンカー・テリーについて

「ツインバルカン」

指先から機関銃

“パワーウェイブ”

足元を叩きつけ、衝撃波

“バーンナツクル”

拳を突き出し突進

“パワーダンク”

相手に向かって跳び上がり、気をまとった拳で叩きつける

以下はリミッターが解除

“ライジングゲタツクル”

宙返りしながら、回転上昇

“クラックシユート”

跳び上がり、脚で円を描きながら力カト落とし

“パワーゲイザー”
パワーウェイブの強化版、巨大な衝撃

“バスターウルフ”

片腕で突進、その後拳に溜めた気で相手を吹き飛ばす」

クイント

「どつ？まさにオツケー！！」

Episode 3 : ストーリー 23 【妖鬼のメガーヌ】

数時間前、個室

メガーヌ

「次は私……。」

ルーテシア

「ですの〜!」

ピッ

メガーヌのハーフデバイス

「オニレンゲ」

宝具搭載型ハーフデバイス

太刀、ぞくに言う魔剣

“オニボサツ”

オニレンゲと一緒に使用する、二つの浮遊する鬼のお面。
ビーム出したり、鬼の巨人……鬼神になったり便利」

メガーヌ

「次が使いかた……。」

ピピッ

オニレンゲ、オニボサツの使い方について

「マブイタチ」

オニレンゲの斬撃波

“ヨミジ”

オニボサツが鬼神化、極太ビーム

“ライゴウエ”

オニボサツからのビーム

“マブイエグリ”

オニボサツが鬼神し先行……相手を拘束して、オニレンゲでグリグリ」

メガーヌ

「以上ですの！」

Episode 3：ストーリー24【炎精のアギト】

数時間前、個室

アギト

「あゝ……ヤツパあたいも？」

ピピッ

アギトのハーフデバイス

「ファイアキューブ」

エレメント搭載型ハーフデバイス

エレメントキューブの一種」

アギト

「ハイハイ、次々々々！！！」

ピピッ

ファイアキューブについて

「バーンストーム」

敵付近で爆発を起こし、それによって、発生する上昇気流で敵を吹き飛ばして全体を攻撃

“ファイアランス”

追尾性がある槍状の炎を敵に向かって飛ばす

“イフリートキャレス”

バーン・ストームから派生する大魔法

灼熱の炎の壁で相手を覆い全て焼き尽くす

“カラミティブラスト”

ファイア・ランスから派生する大魔法

灼熱の火炎を呼び起こし、其処から焔の雨を降らせる

“プリペイド・ソーサリー”

敵全体の呪文詠唱を封じる補助魔法

“マイト・レインフォース”

味方の足元に赤き円陣を生み出すことによって、攻撃力を倍にする
補助魔法

“レディース・パワー”

敵の足元に赤き円陣を生み出すことによって、攻撃力を減少させる

“シールド・クリティカル”

敵全体を緑のクリスタルのようなもので覆うことで、特殊攻撃封印する補助魔法」

アギト

「あんまり、ふざけていると……。
燃やしちゃうゾ?」

キラッ

ナージャー

「何で、コッチ見ながら言っ……。」

Episode 3 : ストーリー 25 【狼のメザメ】

現在、訓練施設

レジアス

「……………」

これがお前のハーフデバイス

スッ

レジアス

「パイルバンカー・Mk - ? 改……………」

ヒュウウウウ……………」

バツ

セットアップ…!

ガシャン!

ノーヴェ

「ほんじゃ早速……。」

いっくぜ~~~~~!!

ゴオツ!

ノーヴェ

「おらああああ!!」

ドカーン!!

レジアス

「ぐはあ!!」

ドサアアア~~~~!!

へっ

ノーヴェ

「カッコ付けて、その程度かよ〜〜!!」

くっ……!!

レジアス

「ヤハリ……私では……。」

ブァン!

聞けレジアス!

レジアス

「コレは……!!」

ノーヴェエ

「ドクター?」

お前は何の為にいる!

レジアス

「何の……為に……。」

それは、ハーフデバイスは、お前が待ちの望んだ力じゃないのか！！

ぐっ……。

レジアス

「そうだ……私は！！」

答える！！

レジアス・ゲイズ！！

ああ……。

レジアス

「私は力が欲しかった……ゼストは力があつた……恨んだりもした
さ……。」

フフッ

レジアス

「しかし……。」

ぐぐ……。

レジアス

「今の私には……。」

バツ！

レジアス

「戦う為の力と覚悟が……。」

カツ！！

ある！！

Episode 3：ストーリー26【餓狼のレジアス】

ジェイル研究所、訓練施設

ゴオツ！

はああああああ！！

レジアス

「……………」

ハンドバルカン

ダダダダダダ

チツ！

ノーヴェ

「こんなモン、効くかよ！！」

ドウウウ！

レジアス

「それは、牽制だ！」

な！？

レジアス

「F2Wライフル、ショートレンジ！」

ドシュー！ドシュー！ドシュー！

バツ

ノーヴェエ

「だからって……！」

フツ

ゴオツ！

ノーヴェエ

「後ろ!？」

ザザザアアアア!!

レジアス

「貴様の命運は尽きた……。」

ガシャン!

レジアス

「ロングレンジ!」

ギイイイイン!!

あ……!

大人しく此処で散れえい!!

ドシユウウウウウウ!!

ドゴオオオオオオオン……。

ガシヤン！

レジアス
「……………」。

リッパー研究所、カプセルルーム

ケケケッ

プシュー

リッパー

「どつですか？レッドくんの……新しい体は！！
最高評議会の評議長どの、評議員どの、書記どの……！」

む……。

スコープアイと髪が青の男

「我々に、久しぶりの肉体の提供は、感謝するが……。」

我が名は、アルファ・セラフィム！

スコープアイと髪が白の男

「フム……確かにいつまでも、名無しではな？」

我が名は、ベータ・ケルビム！

スコープアイと髪が黄色の男

「では、私も見習って……。」

我が名は、ガンマ・スロウン！

フムフム……。

リッパー

「セラフィム、ケルビム、スロウン……。
全部、天使の名前ですね？」

セラフィム

「無論だ、我々は人を超えた！」

リッパー

「では、チームネームでも付けますか？」

ケルビム

「チームネーム？」

リッパ―

「いつまでも、最高評議会では味気ない……コレにも名前を付けるべきです!」

スロウン

「何か、あるのか？」

リッパ―

「はい……。」

ニヤアア……。

“デッドウォーカー”

リッパ―

「意味は、“死を超越し、全世界を歩く者”……。
で、ございます。」

フム……。

セラフイム

「死を超越、か……。」

ケルビム

「いいんじゃないか？」

スロウン

「決定だな……。」

ペコ

リッパ―

「ありがとうございます。」

ケケケツ

リッパ―

（ホントは“死んで、死世界をウロウロ歩き回る”って、意味だけどね〜……。）

バツ！

セラフイム

「ではまずは、我々の部屋に連れてってもらう。」

ケルビム

「久しぶりの肉体だからな……。」

スロウン

「馴染むまで、時間がかかるようだ。」

スッ

リッパー

「解りました……ではこちらへ……。」

セラフィム

「ウム。」

カッーンカッーン……。

リッパー

（まさか、時空管理局に……。
こんなお宝が、眠っていたとはな……！）

カッーンカッーン……。

ケケケッ

リッパ―

（何か、娘のいる親父もブッコロしてきたし……ホントついてるぜ
〜〜!!）

ヒヤッハ〜!

楽しくなってきた〜!!

Episode 3 : ストーリー 28 【哀愁のクライウルブス】

ジエイル研究所、個室

私が隊長？

ナージャー

「ああ……模擬戦とは言え、ノーヴェに勝ったからな？」

レジアス

「しかし……。」

ドクター！？

ノーヴェ

「た、確かにあん時は……その、油断したけどよ……！」

む！

クイント

「だめぞ？ノーヴェ……そんなわがまま言っちゃ……。」

ノーヴェ

「でも母さん……!!」

大丈夫!

クイント

「母さんに、任しとき……!!」

うん?

ナージャー

「母さん?」

ああ……。

クイント

「私をベースに、造られたこの子は……。」

あーそうだった

ナージャー

「だから、母さんが。」

クイント

「ユニットネームも、決まっているのよ?」

ナージャー

「ユニット?」

集合!!

ピッピッピッ!

クイント

「いち!」

ピッ

チンク

「はい!」

クイント

「に!」

ウェンディ
「はい！」

ピッ

クイント
「よん！」

ダイエチ
「はい！」

ピッ

クイント
「さん！」

ノーヴェ
「はい！」

ピッ

我ら！！

バツ！

N 2 R！！

クイント

「ちなみに、「ナカジマ・セカンド・レボリューション」よ？」

ヒュウウウウ……………。

ナージャー

「……………」

レジアス

「……………」

一応

レジアス

「む？」

ナージャー

「クライウルブズ”って名前……考えておいた……。」

ガンバレ!!

ぴゅん……。

あ!!

レジアス

「逃げた!？」

クイント

「我ら!」

N2R!!

ぶるぶる

レジアス

「わ、私に……。」

こんなのを、任せると言うのか~~~~~!!

Episode 3：ストーリー29【明日の為のイッポ】

ジエイル研究所、通路

タッタッタッタ！

フウ……。

ナージャー

「此処で来れば。」

ピピッ

パイルバンカー Mk - ? 改・ガンファイト

「次世代ハーフレバイスのテスト機として、パイルバンカーをベースに造られた。改型とも、言われる。」

“ハンドバルカン”

片手から機関銃

“Hiビームカッター”

ビーム状の手持ち剣

“ ジェットマグナム”
突撃して拳を炸裂させる

“ F2Wライフル”
正式名は、フォールディング2ウェイライフル
バレル式のライフル、ショートレンジとロングレンジに切り替え可能

“ サテライトキャノン”
ラウンド・セルを改造したバックパック、通称サテライト・セル。
F2Wライフルに連結で強力なビームキャノンが撃てる……だが、
月が出ている時にしか使用出来ない」

ナージャー
「コレがお前の力だ、頑張れよ?」

N2R!!

え、N2……R

ホラもう一回!!

ナージャー
「.....」。

うん！

オキエツシ.....

Episode 3：ストーリー30【打撃のダークナイト】

ジェイル研究所、ゼストの部屋

で……。

ゼスト

「私の所に避難……と言う訳が。」

ああ！

ナージャー

「だから、ここ……“ダークナイト”で、かくまってくれ!!」

フフッ

メガーヌ

「みんな？チヨット来て？」

はい。

でよ〜……。――。

ナージャー

「ホント参ったぜ〜……。マジで！」

ゼスト

「ナージャー……。口調が戻ってないか？」

む！

あん？

チョップ

ビシッ

アタツ！

ナージャー

「何だ！？」

クルッ

セイン

「あたし、じゃないよ？」

ナージャー

「じゃあだれが!!」

チヨップ

ビシッ

アタッ!

クルッ

セツテ

「私では、ありません。」

チヨップ

ビシッ

アタッ！

クルッ

オットン

「僕じゃ、ありません。」

チヨップ

ビシッ

アタッ！

クルッ

デイド

「私では、ありません。」

ナージャー

「……………」

きゅぴゅん

ナージャー

「そこか〜!!」

クルツ

セツテ

「チョップ。」

ビシッ

アタツ!

ナージャー

「ぐ……………!!今チョップつったよね?言ったよね!?!」

セツテ

「あ……………」

ナージャー

「あ……って言うな!」

セイイン

「……。」

チラッ

オットン

「……。」

チラッ

ディード

「……。」

チラッ

コクン

チヨップチヨップチヨップチヨップチヨップチヨップチヨップチヨップチヨップチヨップチヨップチヨ

ツプチョップチョップチョップチョップチョップ

ビシッビシッビシッビシッビシッビシッビシッビシッビシッ
ビシッビシッビシッビシッビシッビシッビシッビシッ

ナージャー

「あー!? くら貴様らー!」

フウ……。

ゼスト

「あんまり、ナージャーをからかうんじゃない……コレが……。」

フフッ

メガーヌ

「だって、とつても……楽しいんですもの!」

チョップチョップチョップチョップチョップチョップ
ツプチョップチョップチョップチョップチョップ

ヒイヒイヒイヒイヒイ!!

Episode 3：ストーリー31【闘いのカゼ】

ジエイル研究所、司令部

ふひ〜

ナージャー

「ちつとこお……落ち着ける……。」

ウーノ

「お疲れさまです、ドクター。」

ピピッ

ヴァン！

ウーノ

「それは？」

フム……。

ナージャー
「一つは、私……ジェイルが使っていたデバイスを、ハードバイ
ス化した。」

“スパイダーレイ”

そして、もう一つは目から高出力のレーザーを、放つ。

“レーザーレイザー”

どちらも、エレメント搭載型だ。」

スッ

ウーノ

「私に？」

ナージャー

「ま、護身用だな？レーザーレイザーは……やはり、クアットロ
か……。」

ペコ

ウーノ

「ありがとうございます。」

いいな

ナージャー

「もうすぐ、試練が始まる……その下準備さ。」

試練？

そう

ナージャー

「この、『ルナデルタクロス』からの、Mから送られる指示による……。」

ヤツと……。

この私、
“エクストラシリーズX【サタン】”との試練がな…
……！

機動六課、ミヤの部屋

私の名前は、シシロウキ・ミヤ……。

“エクストラシリーズZ【ルシファー】”で、“ソルデルタクロス”を持っている……。

リニス

「なに一人で、ブツブツ言っているんです？ミヤ……。」

あゝ……。

プレシア

「いつもの、病気よ。」

「ほっときなさい……。」

ミヤ

「ひ、ひでえ……。」

グスッ

フェイト

「ま、まあまあ……お母さん。」

フン！

プレシア

「フェイトは、甘いのよ！」

此处でナメられたら、何処までも付け上がっちゃうんだから……！ア
リシアなら……。」

え！？

フェイト

「お姉ちゃんも、いるの……！」

ああ……。

ミヤ

「アイツなら、日向の所に……いるぜ……！」

日向……。

フェイト

「また、新しい子……。」

ビリ……！

チヨツ！？

ミヤ

「違っつて！なんつゝかそのー……オレの姉？」

フッ

フェイト

「ミヤのお姉ちゃん？」

ナージャー

「ま、そんなとこ……明日にでも……一緒に行く？」

機動六課、食堂

ガヤガヤ

ピピッ

アイスキューブ

「アイシクル・エッジ」

敵全体の頭上に無数の氷の柱を振りそそがせる

「クール・ダンセル」

剣を持った氷の精霊を召喚し、敵単体の回りをヒット&アウェイしながら連続で切りつける

「デルタストライク」

アイシクル・エッジから派生する大魔法

三角形の超低温の氷を打ち付けて敵を氷結させる

「アブソリュートゼロ」

クールダンセルから派生する大魔法

絶対零度の氷に閉じこめて敵を封じこめる

“リフレクト・ソーサリー”

味方の足元に緑の円陣を生み出すことによって、敵全体の魔法から反射できる状態にする

“ガード・レインフォース”

味方の足元緑色の円陣を生み出すことによって、防御力を倍にする補助魔法

“レデュース・ガード”

敵の足元に緑の円陣を生み出すことによって、防御力を減少させる

“シールド・クリティカル”

敵全体を緑のクリスタルのようなもので覆うことで、特殊攻撃封印をする補助魔法」

ミヤ

「コイツを持って、みてくれ……。」

スッ

ツヴァイ

「はぁ……。」

ギョッ

あ……！

ツヴァイ

「凄い！凄いです！！魔法を使ってないのに、魔力が……！！」

ミヤ

「フフッ、そうだろう？」

アイン

「私も、持っています。」

ピッピッ

Episode 3 : ストーリー 34 【闇風のハーフデバイス】

機動六課、食堂

ガヤガヤ

ピッピッ

リンフォース・アインのハーフデバイス

「エクスカリバー・モルガン」

宝具搭載型ハーフデバイス

聖剣……のはずだが、何故か真つ黒に!?

どうやら、持ち手の属性に反応するようだ。魔力による斬撃が、超
強力!!

“ダークキューブ”

エレメント搭載型ハーフデバイス

エレメントキューブの一種、闇系の魔法が入っている」

アイン

「で、次が……。」

ピッピッ

ダークキューブについて

「シャドウ・サーヴァント」

足元から闇の従事（精霊）を連続で発生させ、突き上げる攻撃

“ダーク・セイヴァー”

標的を中心に斜め左上、斜め右上、下に発生させた三本の槍を突き出し攻撃する

“メテオスウォーム”

シャドウ・サーヴァントから派生する大魔法

天に普く無限の流星を振り注がせて敵を打ち砕く

“ファイナルチャリオ”

ダーク・セイヴァーから派生する大魔法

天より巨大な降魔の剣を召喚し敵を貫き討ち滅ぼす

“キュア・プラムス”

対象の体力を回復させる

“ガード・レインフォース”

味方の足元に緑色の円陣を生み出すことによって、防御力を倍にする補助魔法

“マイト・レインフォース”
味方の足元に赤き円陣を生み出すことによって、攻撃力を倍にする
補助魔法

“スペル・レインフォース”
味方の足元に黄色の円陣を生み出すことによって、魔法力を倍にする
補助魔法

うん？

ツヴァイ

「完璧な、魔法戦士ですね？」

ああ……。

ミヤ

「なかなか、いいもんだろ？」

フフン！

アイン

「騎士たるモノ、当然です!!！」

しかし……。

ミヤ

「ツヴァイよ……。」

はい？

ミヤ

「人間大にはなったが、まるで……“蛾”みたいだったな？
いまじゃ、どつかの“イカ”みたいだし……。」

アイシクル・エツジ！！

キンキンキンキン！

どすどすどす……！

ミヤ

「冷凍まぐろ……！？」

ツヴァイ

「次は、無いでゲソ……!!」

本当に、あの時アギトは……。

ファイア・ランス!!

ボウ!

照り焼きチキン!?

ミヤ

「で……。」

電波……。

ガクッ

Episode 3: ストーリー35【やはらのミヤ】

機動六課、食堂

どよどよ

ガチガチガチガチ

ミヤ

「し、死んじゃうツモ〜」……。」

フウ……。

スバル

「大丈夫ですか？ミキヤさん……。」

あ、ああ……。

ミヤ

「な、何とかな？後……。」

はい？

ミヤ

「オレの名前は、ミヤだ…… “キ”が多い！敬語も禁止！！」

あ！

スバル

「は、はい……じゃなかった！
うん！解った！！」

ミヤ

「よし！！」

なでなで……。

あ………。

ミヤ

「フフッ……」

何をしとるか……！！

スパアアアアアン！！

ひでぶ！？

ヴィータ

「また、ミヤの病気が？」

ミヤ

「ぐぐ……！人様をタラシ野郎みたいに、言うな！！」

だって

ヴィータ

「なあー？」

コクン

シグナム

「うむ！」

くっ……！

ミヤ

「ス、スバルは？」

チラッ

スバル

「あ、え……と……。」

「ごめんなさい……。」

ミヤ

「!？」

うえええええええええん!!

Episode 3 : ストーリー36【泣きむしのルシファー】

機動六課、個室

うう、グス

ミヤ

「ひで〜よ、二人とも……。」

ええい！

シグナム

「男のくせに、メソメソ泣くな……！」

ん？

ヴィータ

「う〜ん……… 痛い、デジャブ？」

グスングスン

ピピッ

チキチキチキチキ

ミヤ

「アレ？コレは……。」

ピピピッ

ミヤ

「なるへそね？」

シグナム！ヴィータ！

シグナム

「なんだ？」

ヴィータ

「もう、泣きやんだか？」

あ、あのね……。

ミヤ

「フウ……ま、いいやー……。」

「喜べー！お前らのハーフデバイスだ！！」

シグナム

「我々の？」

ヴィータ

「ハーフデバイス？」

Episode 3 : ストーリー37 【そのチカラ、ラムダ・ドライブ】

機動六課、個室

スッ

シグナム

「これは……。」

ヴィータ

「D・アームズ、D・レックス？」

そ

ミヤ

「その、カスタム……。」

ジャジャンー!!

ミヤ

「ミヤさんの、何でも答えちゃつんですよ……!」

チャキ!!

シグナム

「バット・エンド・スラッシュ……。」

ゴォッ!

ヒイ!?

ミヤ

「人の決めゼリフを……!
じゃなかった!悪かった!悪かったから!」

ペコペコ

はぁ……。

ヴィータ

「シグナム……許してやれよ。」

シグナム

「チツ！」

チャキン

ミヤ

（今舌うちした……！？）

シグナム

「真面目にやれ。」

ミヤ

「ヤがカタカナ……解りました……。」

まず

ミヤ

「二つの共通は、同じシステムが搭載されていること……。
名を“ラムダ・ドライバ”と、言う。」

ヴィータ

「ラムダ・ドライバ？」

ミヤ

「ある、特定のイメージを具現化するシステムだ……オレのコピーに、似ているな？」

シグナム

「特定のイメージとは？」

ミヤ

「D・アームズ・バレス」は、幻を……。

“D・レックス・コーダル”は、力を、イメージする事が出来る……。

Episode 3：ストーリー38【試験的な、そのバトル】

機動六課、水上練習場

ミヤ

「二人とも、準備はいいか？」

シグナム

「あ、ああ……。」

ヴィータ

「な、何とか……。」

オイオイ〜

ミヤ

「シツカリしてくれよ？二人とも〜……。」

くっ……！

シグナム

「貴様が！」

ヴィータ

「無茶をするから!!」

ミヤ

「そんな事、言っただけ!!」

ノクターンノベルズ、元神魔王で検索

ほんじゃま……。

ミヤ

「はじめますか!!」

“クロスアームボウ”、トレース・オン!

カシャン!

ミヤ

「久しぶりのバトルだ……。」

楽しもうぜえええええええええええ！！

Episode 3：ストーリー39【観客のマオウ】

水上練習場、付近

なのは

「ミヤと……。」

フェイト

「ヴェータ、シグナムの戦い。」

スバル

「なのはさん、ミヤは強いんですか？」

エリオ

「あ！ボクも、それ気になった！！」

フリード

「ぐぐる〜」。

キャロ

「フリードも気になる？」

ティアナ

「両腕にクロスボウ……。」

あれ？

スバル

「どうしたの？ティアナ！」

え！？

ティアナ

「う、ううん？何でもないよ？」

あれ？

フェイト

「お兄ちゃんは？」

なのは

「せっかく時間があって、来たら……。」

ヴァン！

ミヤ

『プレシアがいたから、とりあえず話を聞こうとしたら、巻物にされた……。』
大方そんな所だろ?』

ひゃあ!?

なのは

「びっくり!?!」

ミヤ

『ほんじゃな?』

ヴァン!

なのは

「ミ、ミヤくん?」

ゴオツ!

スバル

「な、なのはさん!?!」

エリオ

「うあ!?!」

キャラ

「きゃあ!?!」

フェイト

「そう言えば、ミヤが言った……。」

ティアナ

「な、何で、言っていました?」

確か……。

魔王化

フム……。

シグナム

「ビーム状の槍を、連続発射……。

射撃がボーゲンフォルムだけだったからな……使い勝手がいい！」

オラオラ……！！

ブン！

バツ！

ミヤ

「つとー！」

ザザッ

ヴィータ

「コッチも忘れんなよ？」

ガチャン

ミヤ
「忘れるか!!」

ヴィータ
「行くぜ……!!」

ギイイイイン!!

メガ・ブラスターショット!!

ドシューウウウウウ!!

ミヤ
「ヤバ!？」

バツ!

シューウウウウ……。

へへっ

ヴィータ

「アイゼン持っても、撃てるからな……。
ハーフデバイス！噂道理だ！！」

あっちゃ

ミヤ

「二人とも、使い勝手のいい射撃……持っていなかったからな……
……。
こりゃチョット、ヤバい？」

水上練習場、付近

スバル

「あゝ！押されてませんか！？」

ティアナ

「副隊長二人で、戦う事自体間違っていないませんか！？」

うん！

エリオ

「ボクも、そう思います!」

キャラ

「わたしも!」

うん……。

なのは

「ミヤくんは、ジロウくんでもあり……。」

フェイト

「シヨット・アーチャーでも、あったからね……。」

エリオ

「ジロウ?」

キャラ

「アーチャー?」

スバル

「何ですか?それ……。」

あ、あはははは……。

なのは

「まあ……わたし達の……。」

フェイト

「初恋の人……かな？」

へくしょん！

スバル

「……。」

ティアナ

「……。」

エリオ

「……。」

キャロ

「……。」

チツ！

ミヤ

「干将・莫耶！トレース・オン！」

カシャン！

ハア！

バツ

ガキイイイイン！！

バチバチバチ

シグナム

「我々の攻撃を、一人で防ぐとは……。」

ウィータ

「やるじゃね〜か！ミヤ！！」

そりゃ

ミヤ

「どうも……。」

ね!!

ガキャン!!

シグナム

「くっ……！」

ヴィータ

「ぐあ！」

スッ

ミヤ

「逃すか……。」

ブン!

ブン！ブン！ブン！ブン！

ミヤ

「投げ続けるのみ……。」

水上練習場、付近

なのは

「あ！あれは……！」

フェイト

「なのは？知っているの？」

うん……。

なのは

「10年前だけど……一度だけ。」

うん……。

スバル

「どう見ても、ただ闇雲に投げているような……。」

なのは

「とりあえず、磁石……なのかな？」

スバル

「磁石……ですか……。」

エリオ

「全然、想像できないや。」

キャロ

「わたしもです。」

あ！

ティアナ

「チヨット！アレは!？」

Episode 3 : ストーリー 42 【墮天神のチカラ】

機動六課、水上練習場

ブン！ブン！ブン！ブン！ブン！ブン！ブン！

シグナム

「コ！コレは！？」

フツ

ミヤ

「貴様らは、私の敷いたレールの上に、既に走っていたのさ。」

チツ！

ヴィータ

「ミヤ！テメー、口調が変わっているぜ！…！」

フム

ミヤ

「久々に、シヨット・アーチャー風味でいったんだかね……。コレがなかなかどうして。」

ふう〜やれやれ

シグナム

「アーチャー？よくわからないが……。」

ヴィータ

「何か……ムカつく……！」

ミヤ

「では、始めめようか……。」

貴様らの、勝気なそのストーリー……。

バツ！

コノ私が、書き換えさせてもらっ……！

パチン

ヒュンヒュンヒュンヒュンヒュンヒュンヒュン

シグナム

「来たか!!」

ヴィータ

「チイツ!!」

スッ

カチャ

ミヤ

「ダメ押しのこと。。」

魔眼……解放!!

バババババババババツ!!

シグナム・ヴィータ

「な!?!」

水上練習場、付近

スバル

「剣のブーメランの中に!?!」

ティアナ

「突っ込んだ!?!」

フェイト

「なのは!?!」

なのは

「知らない!わたしもあんなの!?!」

Episode 3 : ストーリー43 【処刑拷問執行人のコトワリ】

機動六課、水上練習場

シグナム

「くっ……!!」

レヴァンティン

『シユランゲフォルム!』

ガシャン!

シグナム

「飛竜……。」

一閃!!

ギャリリリリリリリリリリ!!

ヴィータ

「あたしらもだ!!」

グラーファイゼン

『ヤー！ラテーケンフォルム！』

ガシャン！

ヴィータ

「おらああああー！！」

ブンブンブンブン！！

フッ

ミヤ

「先に剣を潰しに来たか……。」

だが

バツ！

ブローケンファンタズム！！

ドカーン！ドカドカドカドカーン！！

シグナム

「なに！？」

ヴィータ

「ぐはあ！！」

バババツ

な！？

ミヤ

「ダメ押しと言ったはずだ……。」

投影斬殺……。

十七分割！！

ズババババババババババババ！！

がああああああああああ！！

ドサアアアア……！！

ミヤ

「コレが……。」

ゴオオオオオオオオ……。

処刑拷問執行人の力だ……。

水上訓練場、付近

あ……。

スバル

「勝っちゃった……。」

じゃなくて!!

ティアナ

「副隊長達を、助けないと!!」

タッタッタッタ

機動六課、水上練習場

おゝい

ミヤ

「大丈夫ですか？」

ぐううううう……。

ヴィータ

「ま、負けたあああ……！」

フウ……。

ミヤ

「しゃくないじゃん！新型ハーフデバイスを、使いこなしてない上に……。」

オレの能力、完全に理解してないし。」

ぐっ……！

シグナム

「だが！しかし……！」

まあまあ

ミヤ

「逆に言えば、もっと強くなれる可能性がある……。」

キイイイイイ……。

お！

ミヤ

「来たか……。」

ザッ！

なのは

「二人とも無事……って。」

ヴィータ

「……。」

むす〜

シグナム

「……。」

フン！

フェイト

「二人とも、ふてくされてる。」

フム

ミヤ

「やれやれ、全く困ったヴォルケンリッターだよ……………」

スバル

「ミヤ？何、その喋り……………」

ティアナ

「何か…………ムカつく。」

エリオ

「うん！」

キャロ

「お腹が、ムカムカします。」

フリード
「ぐぐる……！」

な！？

ミヤ

「何ぜ不評……！」

あ！

なのは・フェイト
「ショット・アーチャー……！」

スバル
「……。」

ティアナ
「……。」

エリオ
「……。」

キャロ

「……。」

フリード

「くえ？」

シヨット・アーチャー？

Episode 3 : ストーリー45 【二人のキョウカプラン】

機動六課、個室

ヴィータ

「……………」

シグナム

「……………」

ほ、ほらさあ〜……………。

ミヤ

「二人とも、いつまでもプンプクリンなんて、してないで〜……………。
あ！ホラさ！二人の為に強化プランも、考えたしさ！！」

ヴィータ

「強化？」

シグナム

「プラン？」

ミヤ

「う、うん……ホラ。」

ピピッ

ヴェータ強化プラン

〔“D・レックス・コーダル”

エレメント搭載型で、ラムダ・ドライバと言うシステムが搭載されている。

“力”をイメージ。

“メガ・ブラスターショット”

ショットストライクの強化版、極太レーザー

“スラッシュエンブ”

ラッシュエンブの強化版、カカト落としの真空波、カマイタチ

“コード！アルティメットキック”

ダッシュフィートの強化版、気合いの入った、渾身の蹴り

以下が強化プラン

“ゴルディオソフォーム”

ラテーケンフォルムの強化版、ハイパーモードに入り、金ぴかになって叩きつける。

重“力”を一時的に、発生させる。

“G・クラツシャーフォルム”

ツェアシュテールングスフォルムの強化版、ハイパーモードになる。グラビティシヨックウエーブにより、光にする。」

ミヤ

「んで、シグナム……。」

ピッ

シグナムの強化プラン

「D・アームズ・バレス”

エレメント搭載型で、コーダルと同じく、ラムダ・ドライバが搭載されている。

“幻”をイメージ。

“シャドウ・ガンナー”

アームガンの強化版、ビーム状の槍を連続で発射

“ミラージュ・ブレード”

アームブレードの強化版、残像を残しつつ切る

“イリユージョン・シールド”
アームシールドの強化版、分身を生み出す

以下が強化プラン

“紫竜乱閃・幻刻”

残像を発生させ、高速で紫電一閃と飛竜一閃を繰り返す。
幻刻は幻覚、刻印……英語で、ミラーージュ・サイン。

“ファントムファルケン”

シュトルムファルケンの強化版、炎のカタチをした鳥型のエネルギーを発射。

どくみても、フェニックス。」

どど〜ん!!

ミヤ

「どど〜ん……」

機動六課、個室

ミヤ

「で、どうやら？どうなのよ？」

う、うむ！

シグナム

「ま、まあ……………いいんじゃないか？」

ヨッシャ！ミヤからの～…！じれこますですの…！

へん…！

ヴィータ

「仕方がなく……………貰ってやるぜ！！！」

光になれええええええええええええええええええええええ！！

な！？

ミヤ

「会話が……ぶれた？」

こほん

シグナム

「で、ミヤはこれから、どつすゐっ？」

ヤッパ

ヴィータ

「機動六課に入るのか？ミキヤの時からいたし。」

うん……。

ミヤ

「どつだろ？とりあえず……。」

藤見町に戻ってみるかな？

Episode 3：ストーリー47【くじ引きのアンバランス】

翌日の機動六課、食堂

とりあえず

ミヤ

「パーティーセレクトだ。

全員が全員、行けないし……フェイトは決定だ、約束だしな……。」

フェイト

「ミヤ……！」

じゃあ……。

ミヤ

「後は、一人か二人……だな？」

でもって、ここにくじ引きが……。

バツ！

はい！

「なのは
……。」

「はやて
……。」

「ヴィータ
……。」

「シグナム
……。」

「シャマル
……。」

「コオオオオオオオ……。」

「スバル
ゴクッ……。」

ティアナ
「空気が……。」

エリオ
「ビリビリする……。」

キャロ
「うん……。」

ザフィーラ
「先に動いたものが……。」

プレシア
「ええ……。」

アイン
「決まる……。」

ツヴァイ
「ですね……。」

スツ……。

リニス

「動く!!」

はあああああああああ!!

機動六課、門前

ほんじゃま〜……。。

ミヤ

「行ってくんね〜！〜！〜！」

はい！

なのは

「いっつらっつらっしやい〜！〜！」

ニロニロ

ゴクッ

ミヤ

(いっつらっつらっしやい〜！〜！〜！)

うんと

なのは

「どしたのかな？ミヤくん……。」

ななななな

ミヤ

「ナンデモナイヨ？」

ガクガク

フフッ

なのは

「そんなに震えちゃって、カ〜ワ〜イ〜イ。」

ミヤ

(ぎいいいいやあああああ……！……！)

うわぁ……。……。

ティアナ

「あんな、なのはさん……見た事がない。」

う、うん……。

スバル

「私何かで、良かったのかな？」

チラッ

ヒイイイイイイイイイイ！！！！！！

ティアナ

「良かったんじゃない？運も実力の内……ってね？」

それに……。

チラッ

うぎゃああああああ！！！！！！？

ティアナ

「あんなんでも、スバルとギンガさん……。
なのはさんとフェイトさんとで、飛行機事故から助けてくれたんでしょ？」

うん……。

スバル

「だから、わたしとギン姉は……。」

じゃっ！

ティアナ

「行って来なよ！ね？」

うん！

スバル

「解った！」

プレシア

「二人とも……アリシアによろしくね？」

フェイト

「お母さんも、もう一人のお母さん……みんなともね？」

リニス

「はい！解りました〜！！」

ミヤ〜〜！行きますよ〜〜！！

プスプス

なのは

「ホラ、みんなが読んでるよ？」

ミヤ

「オ、オレ……。」

こんなの、ばっか

ガクッ

藤見町、通路

バツ！

アリサ

「な！？何なのよ！あんた！！」

スッ

レッド

「デッドウォーカーの為に。」

ザッ

すずか

「ダメ、あの人……人間的意識がない……！！」

赤髪にスコープアイの男……。

アリサ

「アレが、アリシアの言っていた……レッド……」

アリサちゃん!!

解ってるわよ!!

アリサ

「D - バアレル・ヴァイサーガ!!」

バツ!

すずか

「D - バアレル・ヒュッケバイン!!」

ザッ!

セットアップ!!

カシャン!

アリサ

「まずは、わたしから!!」

チャキン

地斬……。

ザン!

疾空刀!!

ドシュ!

レッド

「干将……。」

すずか

「させない……!!」

フォトン・ライフル!!

ガガガガ！

レッド

「ダメージ。」

ドカーン！！

すずか

「やった！波状攻撃……！！」

待つて！！

コオオオオオオオ……。

レッド

「……。」

ゆら……。

すずか

「まだ……。」

くっ……！

アリサ

「すずか！援護お願い！！」

ア、アリサちゃん！？

ゴオオオオオオオオ！！

アリサ

「あんた程度に、見せる技じゃないけど……。」

魅せてあげる！！

リミッター解除！！

すずか

「もう！アリサちゃん！！」

ガガガガ！

アリサ

「……………」

ゴオツ！

レット

「防御力……。」

ザン！

アリサ

「まだまだ！」

ザン！ザン！ザン！

はあああああああああ！！

ザン！

レイド
「機能……。」

停止

ドシヤヤヤヤヤヤヤヤ!!

チキン……!

アリサ

「コレが……。」

奥義

光刃閃!!

藤見町、通路

ピッ

レシド

「自爆起動。」

ドシユ！ドシユ！ドシユ！

ヒュウウウウウン……………。

ドカアン！！

アリサ

「え！？」

タッタッタッタッ

すずか

「アリサちゃん!!」

フッ

アリサ……それにすずか、久しぶりだな？

ヒュウウウウ……。

アリサ

「あ、あんたは!？」

電柱の上

誰？

コケッ

ふ、ふふ

ミヤ

「ヤッパリな……。」

はあ……。

ミヤ

「ジロウ、エミヤ・ジロウ……。
元だけど……。」

あ!?

すずか

「ジロウくん!久しぶり〜!」

あんた!!

アリサ

「今まで、何処に行ってたのよ!」

フウ……。

ミヤ

「あいあい、今そっちに行きますよ〜っ」と…

バツ！

Episode 3 : ストーリー 51 【爆発のアリサ】

藤見町、通路

ザッ

ミヤ

「貴方の為に……ここまで来ました……。」

はあ……。

アリサ

「あんたね〜！アレから10年も、たっただから……。
見た目以外変わんないの!？」

む！

ミヤ

「名前だって、ちゃんとシシロウキ・ミヤになったぞー!！」

へ〜

すずか
「何で、名前が変わったの？」

ま

ミヤ
「あれが、偽名みたいなの……モンだったからかな？」

ふうん

すずか
「じゃあ、これからはミヤくんだね？」

ああ！

ミヤ
「これからは、ミヤくんだー！ー」

フフッ

アハハ

アリサ

「チョット!」

バン!

ミヤ・すずか

「うわぁ!?!」

あんたら~~~~……。

ぷるぷる

ミヤ

「くるな……!」

すずか

「うん……!」

何をホンワカしてんのよ~~~~!~!!

Episode 3 : ストーリー52【二人のトランスフォーム】

藤見町、通路

ふうふうふうふう

すずか

「アリサちゃん……大丈夫？」

ほら

スッ

ミヤ

「お前の好きな、メロンパン……。」

ア〜ンパンチ！！

バキヤア！

ミヤ

「ひ・で・ぶ!？」

ぴゅううううん……………。

ドゴオオオオオオオオン!!

アリサ

「……………」

あなた……………。

チャキ

散髪スル？

ミヤ

「ぎえ!？」

すずか

「ア、アリサちゃん!？」

ウフフフフフ

アリサ

「冗談よ？冗談。」

ゴクッ

すずか

（アリサちゃん……目、笑って無かった……。）

パラパラ

ググッ

ミヤ

「い、いきなり、ぶん殴る事ね？だろ！？」

フアアアアアツク！！！！！！

アリサ

「あんたが、アホな事を言ったからでしょ……！！！」

Episode 3 : ストーリー53 【姉妹のサイカイ?】

早乙女家、和室

ドン!

創

「デカルチャー……。」

ドドン!

ミヤ

「デ、デカルチャー……。」

コソコソ

アリサ

「何で、私達まで……。!」

アリシア

「解ってるでしょ?.....意味は.....!」

フェイト

「この人が……お姉ちゃん……。」

あ……。

アリシア

「お母さまから聞いた……！」

私が、姉のアリシア……！」

って、何か……変だね？」

フフッ

フェイト

「うん……！何か……変……！」

でも、本当に私……ソックリ……！」

そりゃ

アリシア

「姉妹だし……ねえ？」

ボソッ

ミヤ

「でも、胸ねーじゃん……。」

ライトニングハンマー！！

ピシャッ！ドッコオオオオオオン！！

バリバリ

ミヤ

「か……は……。」

むう？

創

「早いな……！」

って

すずか

「大丈夫！？ミヤくん！！」

フン！

アリサ

「自業自得ね！！」

ウンウン！

アリシア

「自業自得！自業自得！！」

フェイト

「あ、あははははは……。」

ピンポーン

ガラガラガラ

たっただいまー！！

あ！

アリシア

「日向だ！！」

早乙女家、和室

トタトタトタ

スバル

「酷いじゃない！ミア〜〜！！」

む〜〜…………。

リニス

「いいですか？ミア！！

私が道を、知っていたからいいものを…………。
勝手に、先行してしまっは！！」

あ〜

ミア

「わりいわりい…………チョットよ…………。
気になった、感覚があったからつい…………。」

じ〜

アリサ

「あんだ、また新しい子に……。」

アリシア

「出会ったんだ……。」

ミア

「へ？」

ギリギリギリギリ

ぎいいいいいやあああああ！？

み、耳！！

ミヤ

「耳がああああああ！！」

まあ！待ちたまえ！！

バツ！

日向

「この日向……この不始末、ミキヤに変わって……。」

ミヤ

「今は、ミヤだ。」

ピキッ

ギリギリギリギリギリギリ

がああああああああ！！

ミヤ

「だ、だから耳！耳！！」

みみiiiiiiiiiiiiiiii！！

藤見町、町外れ

ザッ

ミヤ

「いいんですね？」

バツ！

創

「ああ……かかってこい！！」

この……。

ヒュウウウウ……。

ディアボリッククファンングになあ！！

スッ

ミヤ

「干将・莫耶……。」

トレース・オン！

カシャン！

ズズ……。

創

（オレは、ココロに刻む……。）

軟弱な発想をしたら

許さないとー！！

へへっ

ミヤ

「いろいろな事、やって見たかったからな……。」

まずは

バツ！

ミヤ

「普通に、切り込む！！」

ギャン！

ギギギギギギギギギギ……。

創

「くくくく……あつはつは！
いいぞ〜！そのままオレを、
楽しませろ！！！」

ググッ

ミヤ

「チッ！」

ギャリン！

ザザアアア……。

ガチャ

創

「さあ、かかって来るがいい……。」

このオレに……血をたぎらせて見せる……！

Episode 3 : ストーリー56 【町外れのバルバトル】

藤見町、町外れ

ならば！

ミヤ

「クロスアームボウ、トレース・オン！」

カシャン！

ゴオツ！

創

「いいぞ……出し惜しみはするな……。」

続けて……。。

カシャン！

ミヤ

「コイツでしめだー!!」

カシャン!

バツ!

カリバーン!!

ズバア!!

ミヤ

「名ずけて……。」

ボルクガリバーコンボ!!

コオオオオオオ……。

ふはははあー!

ミヤ

「な!?!」

ミヤ

「ガバツ!？」

ドサアアアア………!

創

「……。」

ガチャ

ギイイイイイン!!

創

「くたばれ!」

惨劇のジエノサイドブレイバー!!

ドシユウウウウウウウウウ!!

Episode 3…ストーリー57【自身のユメ】

広い空間

ギギギギギギギ

起きる……。

う

起きる、目を覚ませ……。

誰？

お前は、やらないと……いけない事がある……忘れたか？

やる？何をやる？

それは、お前がよく知っている……。

まで！お前は……！

そう

お、まえ……。

お前だルシファー……。

何故？何故？何故オレが？

集める、記憶の欠片……失ったピース

記憶……。

一つ目は、お前の親族

親族……日向か！！

後は、未だに……。

ゴォーン、ゴォーン、ゴォーン……。

おい！チッ！

探せ……探して……。

肝心な部分が……！

ゴォーン、ゴォーン、ゴォーン……。

取り戻せ、己……オレ自身を……。

早乙女家、個室

はぁ……。

日向

「ミヤよ……。」

アリシア

「死んでしまうとは、情けない。」

しゅん……。

ミヤ

「何やってんだ？二人とも……。」

あはは！

日向

「……いちはぢ〜昨日から、トラクエやりこんで、しまいませ〜……」

アリシア

「N A ・ S A ・ K E ・ N A } I ! ! !」

チッ！

ミヤ

「ウゼ……………」。

ほひほひ

日向

「この“日向姉さん”に、任せなさい！！」

……………うん？

ミヤ

「何で？オレに姉何て……………」。

いいち

日向

「私は、シリーズ00【ヒナタ】……。
エクストラシリーズZ【ルシファー】のプロトだよ？」

な！？

チラッ

アリシア

「う……………あははは……………」

ミヤ

「アリシア……………」

ゴォーン、ゴォーン、ゴォーン……………」

アリシア

「ヒイ！？」

日向

「あ！あのカネが！？」

尻…………。

アリシア

「いや…………。」

ガクガクガクガク

出せやコラ

ゴォーン、ゴォーン、ゴォーン…………。

いやあああああああ~~~~~!!

早乙女家、個室

罰!!

ミヤ

「我は尻を極めし者……!」

ぶしゅ~~~~~。……。

アリシア

「し、尻って何よ……。」

ピュウウウウ……。……。

チラッ

日向

「……?」

大丈夫だよ？姉さん

ニコッ

ミヤ

「今は”そんな事……しないよ？”

ゴクッ

日向

(じゃあいつか、“する”って事!?)

さあ〜て

ミヤ

「どうしよかな？これから……。」

バン！

あんた……！

ミヤ

「あ、アリサ……。」

アリサ

「創さんと、どっか行ってたと思ったら……！」

フウ……。

ミヤ

「二人の女を、部屋に連れ込んだ……とか？」

な！？

日向

「私は、姉さんだよ？」

ね？

アリサ

「むぐう……！！」

でも

アリシア

「私は、他人だよ？キスもしたし……。」

ミヤ

「げ!？」

キ、キス~~~~~!!

アリサ

「ミヤと……キ、キス……!」

日向

「む……最近の若い子にしては……!」

オイオイ

ミヤ

「冷静だな……姉さん……。」

アリシア

「と、ゆうか〜それ以上?」

以上!?

日向

「基準は?」

アリシア

「「グッド」GO!」

ズ

アリサ

「グッド」!」

フウ……。

ミヤ

「何か……。」

一気に、女子学校の雰囲気……。

Episode 3: ストーリー60【日帰りのイベント】

機動六課、食堂

パパ

ミヤ

「P A ・ P A ! ? 」

おじいちゃん

ミヤ

「O ・ G I ・ I ・ C H A ・ N N ! ? 」

なのは

「ガンバレ! パパ! ! 」

クロノ

「ガンバレ! おじいちゃん! ! 」

な

なんじゃーりゃー！ー！

ニューウツ

ヴァイス

「説明してやるよー！ミヤちゃん……まず！」

ビツ！

ヴィヴィオ

「イエイ！」

ヴァイス

「パパつつつたのは、ヴィヴィオ！保護した子だ！！続いて……。」

ビツ！

カレル

「はあ……。」

リエラ

「行くわよ！カレル〜！！」

ヴァイス

「おじいちゃん呼びしたのは、カレル&リエラ！クロッチとエイミイちゃんの子だー！」

ビシッ！

ヴァイス

「後オレは、ヴァイスだ！ヨロシクウー！」

ミヤ

「こゝ、これはどうも……。」

お兄ちゃん〜

え！？

ミヤ

「今度は兄貴ー！」

チツチツチ！

ヴァイス

「この子は、オレの妹との……。」

ペコ

ラグナ

「ラグナ・グランゼニックです。」

あ……。

ミヤ

「コレは、どうも……。」

シシロウキ・ミヤです。」

ラグナ

「ミヤさんですね、よろしくお願ひします。」

ニコッ

グスン

ミヤ

「ええ子や……！」

ヴァイス

「大丈夫か？」

うん……。

ミヤ

「帰ってから……。」

「……と言つか、生まれ変わってから……まともな……まとも……あ、あ
い……。」

うええええええええん！！

機動六課、食堂

へ

日向

「ここが機動六課……。」

ふん？

アリサ

「まあまあ？」

あ！

なのは

「アリサちゃん！すずかちゃん！？」

フフッ

すずか

「なのはちゃん、久しぶり!!」

えと……。

日向

「は、はじめて!早乙女・日向……です!」

うん?

アリシア

「なんで?そんなに、ビビってるの?」

コソコソ

日向

「でも……相手、軍人さんだよ?
敵前逃亡、即死刑だよ?」

フェイト

「ひ、日向……!」

フフッ

なのは

「そんなに、怖がらなくていいよ？
歳だつて、同じくらいだし……。」

スッ

なのは

「わたしは、なのは！高町なのは！……ヨロシクね？」

あ！

日向

「コツチも……ヨロシク！」

ギユッ

でも……。

にゅっ

ミヤ

「こわいのは、ホントだろ……。」

ギイイイインー!!

スターライトブレイカー!!

ドシユウウウウウウウウウ!!

ああ……。

またか……。

ドツカアアアアアアアアアアアン!!

機動六課、通路

トテカントテカン！

スバル

「何をしてるの？ミヤ……。」

ああん？

ミヤ

「作ってんの、ゲート。」

ゲート？

チラッ

早乙女家ドア

スバル

「早乙女家ドア？」

そ

ミヤ

「早乙女家ドア……プレシアとリニスが作った。」

え！？

スバル

「あ、あの二人が……！」

おーほっほっほっほっほっほっほっほっほっほ！！

そ

ミヤ

「あの二人だ。」

ア〜ハ〜ですねぇ？プレシア〜！！

スバル
「……………」

ねえ

ミヤ
「……………」

なんだ

コソ

スバル
「大丈夫？」

コクン

ミヤ
「大丈夫……………」

スバル
「ホントに？」

ミヤ

「も、もんだい……………」

な

ギオオオオオオオオオオオン！！

な！？

ミヤ

（何だ！？今の寒気は！！）

ガクガク

スバル

「ど！？どうしました！そんなに震えて！！」

う、うん……………」。

ミヤ

「大丈夫……。」

フ、フフッ

大丈夫さ……。

Episode 3：ストーリー63【機動六課の試験のミヤ】

機動六課、水上練習場

で！

ミヤ

「借り契約だが……オレも、機動六課に入る！！」

ヴァン！

なのは

『でも……。』

へいへい

ミヤ

「試験でしょ？模擬試験……！！」

オイ！

ヴィータ

『んな所で、へマすんなよー…ミヤ…!』

へい

ミヤ

「ま、見てなっつゝの…!」

ぽん

3

ぺろっ

2

ギュッ

1

ザッ!

スタート

ミヤ

「オラ〜行くぜ〜!!」

ダダダッ!

水上練習場、付近

なのは

「始まった!」

スバル

「大丈夫ですか……?」

ヴィータ

「ま、何とかなるだろ!」

ティアナ

「わたしも、前にやってみましたが……。」

アリサ

「見物つて事ね？」

ヴァン！

ミヤ

『ティアナ、アリサ……言い忘れた言葉がある。』

ティアナ

「なに？」

アリサ

「何よ！」

ミヤ

『……………。』

ツンデレズ

ヴァン！

ティアナ
「…………。」

チラッ

アリサ
「…………。」

コクン

後でぶっ飛ばす！！

ゴオオオオオオオオオ……………！

なのは

「あゝあ……………また、余計な事を……………」

スバル

「何時もの？」

ああ！

ヴィータ

「何時ものだ!」

あ、あはは……はあ……。

スバル

(うう、わたしを助けてくれたイメージが……。
ドンドン崩れてってる……。)

Episode 3：ストーリー64【模擬試験のゼンペン】

機動六課、水上練習場

ゴピッ

ミヤ

「フム、あの浮遊物体がターゲット……。」

バツ！

ミヤ

「クロスアームボウ、干将・莫耶……。」

トレース・オン！

カシャン！

ビービー

ミヤ

「きずくのが、遅すぎだ!!」

ドシュ!ズバツ!

ドカン!ドカン!

ミヤ

「とりあえず、二つ。」

水上練習場、付近

スバル

「速い!!」

ティアナ

「悔しいけど、わたし達以上かも……。」

ふうん……。

アリサ

「今度、わたしもやってみようかな?」

ヴィータ

「いい線、いけんじゃねえか？」

え！？

アリサ

「ヤッパリ？」

なのは

「ミス・パーフェクトの称号は、未だ健在……ね！」

アリサ

「あはは、ま！そうゆう事ね……！」

あ！

スバル

「ビル前だ……！」

ティアナ

「アレか……アレはチョット、ヤバかったな……。……。」

水上練習場

タッタッタッタ

ミヤ

「なにしても、オツケーだったな？」

スッ

カチャ

魔眼……解放！！

ニヤアア……。

ミヤ

「ビルごと……。」

大切断！！

Episode 3：ストーリー65【模擬試験のコウヘン】

機動六課、水上練習場

ひゃっほおおおおおおお！！

タッタッタッタ

ミヤ

「一周お〜わり！」

トン

水上練習場、付近

ドッカアアアアアアアアアアン！！

スバル

「……………」

ヴェータ

「……。」

アリサ

「……。」

ティアナ

「卑怯……。」

ガラガラガラ

ま、まあ……。

なのは

「ビル破壊も、ダメって言ってないから……。」

ヴァン！

ミヤ

『コレで、ゴールすればオッケー？』

あ

なのは
「うん！」

ミヤ

『じゃあ……。』

またな！！

ヴァン！

うん……。

ティアナ

「凄く納得出来ない……。」

なのは

「まあ、ミヤくんらしいと言えは、らしいけど……。」

グッ！

ヴィータ

「破壊なら、あたしの新フォルム……。
ゴルディオンで……！」

メラメラ

スバル

「うあ！？コツチで対抗心を、出してる……！」

ジャン！

アリシア

「ハンマーなら！あたしのミヨルニル……！」

スバル

「更に追加……！」

何だ？テメー……！！

何よ？アナタ……！！

バチバチバチ

うっあゝ

アリサ

「止めなの?」

なのは

「コツチもよくあるっから……。」

ミヤ

「何で、疑問系なんだよ……。」

アリサ・なのは

「うあー!?!」

ミ、ミ、ミヤくん……。

なのは

「いつの間に……。」

アリサ

「チョット!驚かせないでよ……!」

だってよ〜〜……。。

ミヤ

「ゴールに着いても、だ〜れもでむかい……無しだぜ？」

ま！

ミヤ

「とりあえず、コレで晴れて……。オレも機動六課……つー事だな？」

うん！

なのは

「おめでと〜じ〜！ミヤくん！」

ああ……。。

ミヤ

「ありがとう〜……。なのは」

グッ！

なのは

「きゃっ！！」

え！え！え！？

ミヤ

「いやなのか？」

なのは

「いやじゃないけど……みんなが……。」

フッ

ミヤ

「知るか！」

んぐ！？

スバル

「あ！」

ティアナ
「あ！」

アリサ
「あ！」

ヴィータ
「あ！」

アリシア
「あ！」

あああああああああああ！？

聖王教会、客室

バン！

ミヤ

「ハレルヤ！！」

ドン！

カリム

「は、はれるや……。」

ヴェロツサ

「何だい？君は……クロノが言うから来てみたが……。」

フツ

ミヤ

「キサマ……。」

バラバラにするぞ？

ゾクッ

な！？

カチャ！

シャツハ

「なんだ！？貴様は！！」

クククッ

ミヤ

「確か……シャツハだったな？

シグナムの剣友と言うだけあって、クリソツだ……」

ニヤアア……。

スパン！

はちて

「止めえい……！」

ぐ……あ……！

ミヤ

「な、何する……！はちて……！」

はちて

「あんな事しかして、ムカムカしている上に、此処でも……！」

ハハハ

ミヤ

「……あ、ミヤ……」

しねえ……！

ドロオ……！

ミヤ

「ガバツ!？」

ドサツ……!!

あ、あは、あははは

カリム

「ず、ずいぶんと……愉快?
な、人ね?はやて……?」

クククッ

ミヤ

「疑問系のトリプルか……はやては、この現状をどうみる……!」

うん……。

はやて

「そやな〜……関西として見れば、後一つと……って……!」

げし!げし!げし!

はやて

「まだ生きていたか！このものけは……！」

ギャババババ……！

悪霊退散！悪霊退散！

認めよう……だが！

次に、我が姿を、あらわした時が最後……！

えい！

ドカ！

ミヤ

「ガバツ！？」

ドサツ………！

聖王教会、客室

フム

ミヤ

「では、早速本題に入ろう。」

キリ

うおー？

ヴェロツサ

「叩かれすぎて、おかしくなったか!!」

はやて

「あゝ、あれは……まあとにかく！
今は、マジでモード!!」

えーっと

チラッ

カリム

「え？」

ミヤ

「確か……カリムだったっけ？」

予知があつたな？レアスキル……。」

ええ

カリム

「プロフェーディン・シュリフテンです……。」

ミヤ

「このオレを……。」

占ってみせる

バン！

シヤツハ

「何だ！貴様は……！」

ミヤ

「……。」

カチャ

ギイン！

シヤツハ

「あ……。」

ゴクツ

蒼い瞳

止めときい

シヤツハ

「え……？」

はやて

「彼が……ミヤが本気なら……。」

オイオイ

ミヤ

「それじゃ、超ヤバい人！見たいじゃんよ……！！」

はやて

「実際そう……自分で、処刑拷問執行人とか言ってるし。」

ぺしー！

ミヤ

「あたた、コイツは痛い所つくなく……はやてはん！！」

まあ……。

はやて

「あんさん程でもないで？ミヤはん！！」

あははは〜……。 」

シャツハ

「騎士……はやて……。 」

ハッ！

ヴェロツサ

「あ！ 」

どうしました？

カリム

「ヴェロツサ……。 」

思い出した……。 」

ヴェロツサ

「確か……はやてやなのは……フェイトから聞いた……。 」

名前

名前？

ジロウとシキ

聖王教会、客室

とにかくく〜……。。

ミヤ

「ちつてくれよ〜……。お礼もするからな〜!」

シャツハ

「お礼?」

う〜ん……。

ミヤ

「後から……。って思ったけど、ま!いいか……。」

スツ

カリム

「コレは?」

ハーフデバイス

ヴェロツサ

「ハーフデバイス？そう言えば……クロノが言っていたな？
アレは、画期的だって……。」

ま！

ミヤ

「コイツは、コピーと失敗作だな……。」

ふうん

はやて

「そうは、見えへんけどな？」

まず

スッ

シャツハ

「私？」

ミヤ

「コイツはD・レックス・コーダル……。
ヴィータも、持ってるヤツの「ロピ」……。」

な！？

シャツハ

「あのヴォルケンリッターが……！」

ミヤ

「ちなみに、シグナムも違うタイプのコンセプトのヤツを……持つ
ているぞ？」

次に

スッ

カリム

「は、はい……。」

先に言っておくが

ミヤ

「コイツは失敗作だ……。」

ヴェロツサ

「失敗？」

ミヤ

「ああ、D-アームズにキューブを、入れようとしたが……。」

ハハハ

ミヤ

「アクセラレーションが使用不能の上に、魔法と大魔法が一つづつしか……。」

ふん

はやて

「結構なモンやな……。」

ミヤ

「まあ……一応、ブレードやガンには属性を……。」

ピピッ

D・アームズ・エレメントについて

〔D・アームズにエレメントキューブを搭載したモノ
だが、上手くいかず失敗した欠陥品〕

“D・アームズ・ホーリー”

聖属性のブレード、ガン、シールドと……。

クロス・エアレイド&セレスティアルスターが使用可能

“D・アームズ・ダーク”

闇属性の付属した武器と……。

シャドウ・サーヴァント&メテオスウォームが使用可能〕

どっちがどっちで〜

ミヤ

「……のは、後で決めてくれよ?」

カリム

「はい……。」

ヴェロツサ

「ああ………解った。」

聖王教会、客室

では……。

カリム

「はじめてます……。」

バラバラバラバラ

お〜！

ミヤ

「いつぱいの本が!?!」

しっ

はやて

「静かに……!」

はいはい……。

カリム

「ん!？」

ビクッ

ヴェロツサ

「どうした!姉さん!？」

ああ……!

シャツハ

「騎士カリム!？」

はやて

「あ、ミヤ?」

ミヤ

「……。」

カンシヨウ

垣間見る、現実

キイイイイイイーンー！

カリム

「あ、ああ……。」

広い空間

ギギギギギギ

カリム

「ここは……。」

ここは、私の記憶だよ……。

ハッ！

カリム

「誰？」

カッシーンカッシーン

ほう？

ルシファア

「ヤツが送りこんだ……。」

敵か？

カリム

「あなたは、ミヤ？」

フム

ルシファア

「確かに、ミヤではあるな……。」

トレース・オン！

カッシーン！

な！？

チャキ

ルシファー！

「部外者は、即刻お帰り願おう……。」

広い空間

カリム

「ホーリーガン！」

ガン！ガン！

フム

ルシファア

「ヤツめ……保険を……。」

だが！

ドシュ！ドシュ！

ドカン！ドカン！

カリム

「相殺!？」

フフッ

ルシファア

「いやはや、始めて……。」

その上、欠陥品のそれでそこまでとは……。
だてに、騎士を名乗ってないな?」

シャドウ・サーヴァント!!

ルシファア

「む!？」

バツ!

ドゥー!ドゥー!ドゥー!

ヴェロツサ

「チッ!……姉さん!……!」

ヴェロツサ!?

ルシファー

「巻きこまれたか……。」

はあああああああああ！！

ルシファー

「フツ」

バツ！

ギャリイイイン！！

シャツハ

「くっ……！！」

チラッ

ルシファー

「そして、お前もな？」

ギャンー！！

がはあ！！

ドサアアアア……………！！

カリム

「シャツハー！！」

ググッ

シャツハ

「だ、大丈夫……………です。
騎士カリム！」

フフッ

ルシファア

「本当に、シグナムと似ているな……………。」

ヴェロツサ

「話は、代々読めた……………。」

門番である、貴様を倒せば……！」

ああ……。

ルシファー

「正規ルートではなく、裏ルートの攻略だな？」

だがな……。

ハッ！

カリム

「拳を地面に？」

ハッ！

シャツハ

「二人とも危険……！」

遅い！！

ドカ!

ブレイドゲイザー!!

ジャキジャキジャキジャキジャキジャキジャキジャキジャキジャキ
ジャキジャキジャキジャキジャキジャキジャキジャキジャキジャキ
ジャキジャキジャキ!

ヴェロツサ

「な!？」

カリム

「きゃあああああ!！」

フッ

ルシファ!

「針、剣の山だ……。」

ズババババババババババババ!

くっ……!

シャツハ

「貴様あああああ!!」

フフツ

ババババババツ

シャツハ

「速い!?!」

ここは

ルシファ―

「夢の世界だ……。」

ガシツ!

シャツハ

「くっ! 離せ!」

ルシファー
「ゼロ・トレース……。」

オン!

ぶしやややや……!

シャツハ
「あ……。」

体から剣が……。

ゴォーン、ゴォーン、ゴォーン……。

今回あった事は

生えて……。

忘れてゆっくりにお休み?

負け……。

ゴォーン、ゴォーン、ゴォーン……。

機動六課の夜、個室

フウ……。

ギシッ！

ミヤ

「解りませんでした……か……。」

うん……。

ミヤ

「見た感じ、嘘は言ってないし……。
“出なかった”のではなく、“解りません”か……。」

うん……。

ミヤ

「引つかかるな……。
間違いなく、上級階級の間人だよな？カリムは……。」

フウ……。

ギシッ！

ミヤ

「考えても、そとでよー！」

森

うん？

ミヤ

「何か……むしよゝに、射撃訓練……したくなつた？」

スッ

ミヤ

「クロスアームボウ、トレース・オン！」

カシャン！

ミヤ

「ソルデルタ！」

ヴァン！

ミヤ

「レベルは……」。

ピッピッ

レディー

シャッ！

スタート

Episode 3：ストーリー72【森のヨル、ニテ】

機動六課夜、森

ザッザッザッザ……。

ティアナ

「全く！何であんな、とんでもをみんなは……。」

ヒュウウウウ……。

ピッ

フウ……少し遅い？

コンコン

な！？

ティアナ

（何で隠れてんのよー！あたし〜〜！〜！）

ミヤ

「レベル上げるか……。」

ゴゴッ

レディー

スーハー……。

スタート

ゴゴッザッゴゴッザッゴゴッザッゴゴッザッゴゴッザッ
ゴゴッザッゴゴッザッゴゴッザッゴゴッザッゴゴッザッ
ゴゴッザッゴゴッザッゴゴッザッゴゴッザッゴゴッザッ
ゴゴッザッゴゴッザッゴゴッザッゴゴッザッゴゴッザッ

ティアナ

(うわぁー！すごー！？わたしのやってきた狙撃より……！)

むじゅー？

ミヤ

「ヤツパリ遅いな〜……。」

ティアナ

「最大なのにまだ遅い!!」

うん？

バツ！

ティアナ

「消えた!？」

何だ

ミヤ

「ティアナか……。」

うひゃあああああああ!？

キーン……。

ミヤ

「っつっ……至近距離から、デカイ声出すなよ……！」

あ

ティアナ

「ゴメンなさい……。」

ペコ

はあ……。

ミヤ

「別にいいさ……。」

ティアナ、何で？」

はい？

ミヤ

「何でここに来た……。」

ティアナ

「そ、そりゃあ一番に……。」

違うだろ

え……？

ミヤ

「ティード・ランスターを……。」

証明するためだろ？

Episode 3 : ストーリー73 【暗闇のモノガタリ】

機動六課の夜、森

な!?

ティアナ

「あんたに、関係ないでしょ!！」

フウ……。

ある所に……。

ティアナ

「な、何よ……。」

ミヤ

「ある所に、一人の男がいました……。」

その男は、ある部隊に配属されました。

その男は、上官と二人の女性先輩と任務中でした……。

ですが……。

その任務は、仕掛けられた罠だったのです!!

そして、その男も……。

タイトル“ゼスト隊の最後”

くっ!

カチャ!

ティアナ

「何で!何であんたが!
そこまで詳しいのよ!!」

フッ

ミヤ

「それは、オレが……。」

ティード・ランスターの記憶を

持っているからだ……！

Episode 3：ストーリー74【二人のガンナー】

機動六課の夜、森

あは、あははは

ティアナ

「な、何よ……何訳の解らないことを……。」

スッ

ミヤ

「このクロスアームボウだけで……。」

お前を制する

バツ！

な！？

ドシュ！ドシュ！

ティアナ

「い、いきなり何よ!？」

フツ

ミヤ

「言った所で、解らんだろ……。だからバトル、ようは狙撃の語り合い……。だな！」

くっ……。!

ティアナ

「ワケわかんない!！」

ガン!ガン!

フフツ

ミヤ

「今は、それでいい……。」

ダッ！

あ！

ティアナ

「逃げる！！！」

ミヤ

「訳無いじゃないか！！！」

バババババババババツ

き！？

ティアナ

「木登り！！！」

足でだけどなぐ。

木の上

バツ！

ちヨット〜！降りてきなさいよ〜〜！！

フウ……。

ミヤ

「あ〜はいはい……。」

今

チラッ

降ります

グッ

よつと……！！

バツ！

森

ティアナ

「お!?落ちて!?!」

何をぼろっとしている!?!

ドシュー!ドシュー!ドシュー!ドシュー!ドシュー!ドシュー!ドシュー!ドシュー!

ティアナ

「くっ……!?!」

バツ!

ドサアアアア……!?!

ドシュー!ドシュー!ドシュー!ドシュー!ドシュー!ドシュー!ドシュー!

ティアナ

「フウ……」。

フッ

ミヤ

「チエツクだ！」

カチャ！

Episode 3 : ストーリー75 【森の中のキョウダイ】

機動六課の夜、森

結論からいって……。

ミヤ

「残念ながら、記憶はゼスト隊の最後だけだ……。」

え……？

ティアナ

「じゃあ……。」

そう言う事だ

ミヤ

「オレが受け継いだものは、記憶の一部と、射撃スキルのみ……。」

う……。

ミヤ

「お！おい！？」

ティアナ

「せ、せつかく……兄さんど……。」

はあ……。

ミヤ

「一応、ダークヒーロー……。
何だけどね？」

ザッザッザッ

ティアナ

「あ！」

ギユッ

ミヤ

「今は、今だけは……オレがお前の兄さんだ……。」

ティアナ

「う……ぐず……。」

兄さん……。

兄さああああああん!!

ノクターンノベルズへ

機動六課

チュチュン

個室

おはよう、ティアナ……。

う……ん。

ティアナ

「兄さん？」

フム

まあ……確かに、お前の兄ではあるな？

ガバツ！

ティアナ

「って！どこ何処！？」

どっつて……。

ミヤ

「オレの部屋だが？」

あ、ああ

ミヤ

「さっさと、朝飯くいに行くぞ。」

ぶしゅ〜〜〜

ん？

ミヤ

「まだ、扉は開けてないぞ？」

チラッ

ティアナ

「あつあつあつ……」。

はあ……。

グイツ

ティアナ

「チヨツ!？」

ミヤ

「時間がもつたいないから、お姫様抱っこ。」

ティアナ

「な!なんでアンタは、そんなに冷静なのよ!!」

さあ?

ティアナ

「さあって!？」

ちとと

飯、食いに行くか

機動六課、食堂

どよどよ

フウ……。

ミヤ

「よじやく、ついた。」

タッタッタッタ

ミヤ……！！

ミヤ

「うん？スバルが、おはよう。」

って

スバル

「どうしたの！昨日はティアナが、帰って来なかったし……。」

あゝそいつは……。

ティアナ

「いい加減おろして!!」

ジタバタ

へいへい

スッ

ミヤ

「たく、なんでデカイ声だすかね〜……。」

フン!

ティアナ

「アンタが、アホな事するからでしょ!!」

プッ

ミヤ

「アリサと、おんなじ……。」

ピキッ

ドカ！

ミヤ

「が！？」

ピョンピョンピョン

ミヤ

「オラの！D - !レックスが！？」

フン！

アリサ

「うきうき……」

あ！

ティアナ

「アリサ先輩！！」

チツ！

ミヤ

「本家か！！」

じ〜〜……。

アリサ

「アンタ……何か……した？」

フツ

ミヤ

「する訳無いじゃないか……。」

チラッ

ティアナ

「あう……。」

ブチッ

ヴァイサーガ、セットアップー！

ミヤ

「なに！？」

アリサ

「わたしのー！」

ズバッ！！

アリサ

「後輩にー！」

ドカーンー！！

ガクツ

Episode 3 : ストーリー78【第2F・テイルのハッドウ】

機動六課、水上練習場

フムフム

ミヤ

「今日のオレの相手は……。」

なのは

「……。」

ジャキン！

お前か……。

ミヤ

「フフッ、10年前のあの時以来だな？」

チラッ

ティアナ

「な、何で私とコンビ〜!?!」

フツ

ミヤ

「ある程度、“条件”がそろいつつあるからな……。
いい加減、新技をくってな?」

新技?

じゃあ……。

ミヤ

「早速いきますか!?!」

オレのターン!

スツ

ミヤ

「ドロ〜!?!」

ズバツ！

ティアナ

「え……？カード？」

バツ！

“ティアナ・ランスター”

F・テイル！！

キイイイイイイイン！！

え！？チョット！！

フフツ

なのは

「え？え？」

コオオオオオオ……。

ミヤ

「同調完了……。」

ジャキン

行くぜ？

“ク・ロ・ス・ミ・ラ・ー・ジュ”！！

機動六課、水上練習場

ティアナ

『な!?!何よコレ!?!!』

フウ……。

ミヤ

「騒くなよ……初ノ兄妹作業だぜ……?」

なのは

「あ……。」

ポカーン

クロスミラージュ

『ミヤ……あんまり、マスターをからかわないで下さい。』

ミヤ

「へ……い……て……か、クールですね?」

クロスミラージュ

『サポートが、私の仕事ですから。』

なのは

「むっ〜！」

ぷく〜

レイジング・ハート

『マスター、“ヤ”っつけましょう。』

なのは

「うん、そうだね……。」「

レイジング・ハート

『クロノ！聞こえますか？』

ヴァン！

クロノ

『はい、今子育てに忙しいクロノです。』

なのは

「リミッター外して！」

え……でも……。

クロノくんも……。

頭、冷やしてみる？

ゾクツ！？

クロノ

『ハッ！了解しました！！』

ヴァン！

レイジング・ハート

『リミッターが外れました。』

よしー！

なのは

「まっつてね？」

私のミヤくん

ゾゾゾゾゾ！？

ミヤ

「な！なんだ！？」

ヒイ！？

ティアナ

『なのはさんの目が、光ってる！！』

きゅぴゅん

ウフフフフフ

ミヤ

「じぎぢあー？魔王化ー！」

Episode 3：ストーリー80【なのはのマジギレ】

水上練習場、付近

スバル

「あ！ティアナが消えた！？」

ゴオツ！

エリオ

「今度は、なのはさんが！？」

フリード

「くう〜……。」「

キャロ

「フリード？怖いのか？」

シグナム

「また、ミヤが……。」「

すずか

「ミヤくん……。」

水上練習場

はあああああああああ！！

ゴオオオオオオオオオ……！！

ミヤ

「オレ……怒らせちった？」

兄さんのバカ！

ティアナ

『こんな事すれば、誰だって怒るでしょ！……！』

そ、そんな……。

ガチャ

なのは

「レイジング・ハート。」

レイジング・ハート

『はい、マスター。』

エクシードモード……。

キイイイイイイ

アナタの罪を数えて……。

ガシャン！ガシャン！

ギイイイイイン！！

レイジング・ハート

『カートリッジ装填！チャージ完了！！』

フフフ……。

なのは

「エクセリオンバスター。」

バット・エンド・ショット!!

ドシューウウウウウウウウウ!!

ヒィ!?

ミヤ

「マジ撃ち!!」

ティアナ

『とにかくく〜!!』

ハッ!

ミヤ

「あいよ!!」

バッ!

シュウウウウウウ……。

ティアナ

『ホッ。』

ミヤ

「まだ、安心するな!!」

第2射

オーライ

ドシュウウウウウウウウ!!

くっ……!

バツ!

ゴゴゴゴゴゴゴゴ

なのは

「どじりして逃げるの？」

あ！！

ミヤ

「当たり前だ！！」

うふっ

なのは

「次は、捕まえちゃうから！」

ニコッ

ぎ
いい
いい
いい
や
ああ
ああ
ああ
ああ
！！

Episode 3 : ストーリー 81 【つかの間のキューソク】

機動六課、水上練習場

さうて……。

ミヤ

「どっすつかね……。」

チヨット！

ミヤ

「あん？」

ティアナ

『このままじゃあ、ヤバいんじゃないの!?!?』

うん

ミヤ

「ヤバい。」

ティアナ

『ビッ！ビックリー！？』

はあ……。

ミヤ

「回避してんのは、オレだかね？」

ちとと

ミヤ

「このまま、ぐずぐずしてたら、スタミナ切れは明白……。」

スッ

ミヤ

「クロスアームボウ、トレース・オン！」

カシャン！

え！？

ティアナ

『そんな事も出来るんだ！！』

まあ……。

ミヤ

「オレのスキルに、お前のスキルを足した状態だからね……」

さうて

やるか！！

Episode 3 : ストーリー 82 【機動六課のボーイミーツガール】

機動六課、水上練習場

ザッ！

なのは

「くっっ……！」

バツバツバツバ！

ガン！ドシュ！ガン！ドシュ！ガン！ドシュ！ガン！ドシュ！ガン！ドシュ！

ミヤ

「クロスアームボウ&クロスミラージュ……。」

クロスファイヤー！！

ガチャ！

ガン！ガン！ガン！ガン！ドシュ！ドシュ！ドシュ！ドシュ！ドシュ！

ティアナ
『すごい……。』

まあ？

ミヤ

「お前の兄貴だしな？移動狙撃は、お手の物……。」

コオオオオオオ……。。

なのは

「何で？」

は？

なのは

「何で、ティアナの味方をするの？」

ミヤくん……。

んなの

ミヤ

「そうゆう、コンピでいってなのはも……。」

ギロ

なのは

「ミヤくんは、わたしを……。」

捨てるんだ!!

はあ!?

ミヤ

「な、なんでそんな！突拍子な話に……！」

だって!

なのは

「ただのコンピ訓練だと思ったのに……！」

ギンー!!

ティアナ

『ヒツ!?!』

ミヤ

「いや……だって、訓練とは言え戦闘だぜ？
あるもん全部使わないと……。」

ギリ……。

なのは

「じゃあ何で……。」

わたしと、コンビ……組まなかったの？

そ、そりゃ……。

ミヤ

「組む必要何て……。」

なのは
「…………。」

ゴオオオオオオオオ……………！

兄さん！！

ミヤ

「わ、解ったよう……………」

コホン

なのはが……………。

なのは

「わたしが？」

怖かったから

Episode 3 : ストーリー 83 【起源からのサイカイ】

機動六課、水上練習場

え……？

なのは

「わたしが怖いのか？」

ティアナ

『に、兄さん！？』

フウ……。

ミヤ

「別に、その存在が怖い……とか、そんなんじゃないよ。」

ただな？

ただ？

ミヤ

「いくらオレが、元々ジロウだったとしても……。」

10年……。

そう、10年だ……。

そんな月日が流れば……。

人は、変わってしまう。

記憶も……想いも……。

約束だって、やぶった……。

だから……。

なのは

「わたしに会うのが怖い？」

ああ……。

ミヤ

「怖いな……。」

ミヤくんの

す~~~~っ

バカ!!

ビクッ!

な!?

なのは

「ミヤくんはジロウくん!!
やっと、やっと会えたんだもん……。」

スッ

ミヤ

「あ……。」

ギョッ

だから、だからね？

大丈夫……だよ？

Episode 3 : ストーリー 84 【今回のオチ】

機動六課、水上練習場

もう！

ティアナ

「兄さんも、なのはさんも何時まで！
くつついて、いるんですか！！」

ハッ！

なのは

「あ、あはははは〜……。」「

チッ！

ティアナ

「今、舌打ち……した？」

ミヤ

「ん〜？してないヨ？」

ティアナ

「ま、いつか……けど。」

うん……。

ティアナ

「いつの間にか、戻ってるし……。」

ま！

ミヤ

「習うより、慣れろって……」。

と・こ・ろ・で

チラッ

なのは

「なあに？ミヤくん……」

ニコッ

ミヤ

「さっきの“アレ”は……。」

何？

なのは

「アレ？」

はあ……。

ミヤ

「怒らせた原因はオレだが……。
あんな、バカス力射ちまくった……！ととと！！！」

あ……。

なのは

「あ、あれは……ね？」

あせあせ

ドサッ

なのは

「あ！」

ミヤ

「んん？」

ティアナ

「雑誌？」

ひよい

月刊・恋愛の友

ミヤ

「……。」

ティアナ

「……。」

は？

パラッ

ミヤ

「え〜つと何々？

“鮮血の闇に降り立った天災”……。」

その名！

“リック・ブラッディ”……！！

ミヤ

「かのモノが書く恋愛、真紅に染まりし時……。
そのモノを冥府へと、いざなう……。」

ティアナ

「あ〜！コレ知ってる……！！

今、流行りの売れっ子小説家……！！」

はあ……。

ミヤ

「だってサ。」

チラッ

なのは

「あ……う……。」

プイッ

ティアナ

「あ~~~~！ソップ向いた！！」

コレが

ミヤ

「今回のオチ……か。」

なのは

「オ、オチとか言わないでよー！！」

#~~~~~!~!

Episode 3 : ストーリー85 【激辛のシンネン】

機動六課食堂、テレビ

違いが解る男

クロノ・ハラオウン

クロノ

『違いが解る、キミへ……。』

ダバダ〜ダバダ〜ダ〜

ミヤ

「……。」

何やってんだ？あの男

アイン

「見ての通り。」

ツヴァイ

「テレビ・コマーシャル、ですね？」

ミヤ

「いや！解ってるからー！」

プレシア

「じゃあバカね？」

リニス

「はい〜バカです〜！」

何で！其処に！行き着く！？

プレシア

「だってねえ？」

チラッ

リニス

「……。」

チラッ

アイン
「……。」

チラッ

ツヴァイ
「……。」

コクン

ミヤ
「なあんで、誰も弁解しない〜〜!!」

ジャン!

は〜い

クロノ
「本日のクッキングパパ……。」
☞

それはズバリ!!

マーボー!!

ミヤ

「なに!？」

魔・阿・墓・悪!？

クロノ

『味付けは、“辛さ控え目”のお子様にも……。』

ぬああああいいいい……!!

ミヤ

「ふざけんな!何が、辛さ控え目だ!」

あ!

アイン

「ミヤ!？」

ドッタンバツタンー！！

リニス

「はい〜……。」「

ヤッパリ、バカです。

Episode 3 : ストーリー 86 【虎虎虎のキイロ、イッショクタン】

機動六課、水上練習場

さあーさあー！

ミヤ

「本日もいろいろ、“ヤ”っちゃいますよ〜？」

アイン

「……………」

ツヴァイ

「……………」

どうしたどうした〜〜！！

元気ないな〜……………」

アイン

「……………」

ギロ

ツヴァイ

「…………！」

ギロ

ワンドフォー！！

ミヤ

「流石姉妹！リアクションが、おんなじだあ……！！」

アイン・ツヴァイ

「コイツ…………。」

ジャキン！

ミヤ

「わ！？解ったってば……！！」

フウ…………。

ノクターンノベルズへ

さてと

ミヤ

「今回のバトル相手は？」

ザッ

フェイト

「……………」。

アリシア

「フフッ！」

プレシア

「アラ、出番？」

チッ！

ミヤ

「黄色一色か!!」

ツヴァイ

「怖じけつきました?」

ハン!

バツ!

まさか!!

Episode 3 : ストーリー 87 【雷と、その後のクロス】

機動六課、水上練習場

バツ！

アリシア

「雷！」

姉！！

ピシャッ！！

ズイ！

フェイト

「雷……。」

妹……！

ピシャッ！

ドーン！

プレシア

「そして雷！」

母！

ピシャッ！

みんなはプラズマ……。

ライトニングバースト！！

ピシャピシャアアアア！！

アイン

「……。」

ツヴァイ

「……。」

ヒュウウウウ……………。

ミヤ

「……………」。

フッ

ミヤ

「先手ええ……………」。

必勝おおおおお!!!

オレのターン!

ズバツ!!!

ドロー!!!

アイン!!ツヴァイ!!!

バツ!!

アイン

「え!？」

ツヴァイ

「まさか!！」

クロスF・テイル!!

Episode 3：ストーリー88【“あれ”のジョウケン】

水上練習場、付近

あ！

スバル

「二人が消えた！！」

ティアナ

「またアレか……。」

そっいえば

なのは

「F・テイルの発動条件って……。」

なに？

えーっと

ティアナ
「それは……。」

ア〜ハ〜

リニス

「お答えします〜なのは！
え〜っと、確かですね〜……。」

同性ならば血を交わせ！

そして

異性なら永遠の愛を誓え！

リニス

「でした〜。」

スバル

「う〜ん……同性の血ってのは、解るけど……。」

なのは

水上練習場、付近

なあああんてこつたああ！！

はやて

「と、言うことは……。」

やったんか！やりおつたんか！！」

お、落ち着いて！？

なのは

「はやてちゃん！！」

あんのアホ……。

はやて

「近頃、シグナムや他のヴォルケンリッター達と、よく見かけるな〜って、思うとったら……！！」

え………？

なのは

「みんなと……居たの？」

ゴオツ！

ヒイ！？

スバル

「いきなり……！」

ティアナ

「化……！」

アハハ

リニス

「ちなみに、私もプレシアもアリシアも……ですけどね？」

な！？

リニス

「後は……其処のティアナ!!」

なのは

「……!」

ギン!!

はちて

「……!」

ギロ!!

ティアナ

「ひいひい!!?」

ビクッ!!

なのは

「……。」

チラッ

ひゃあ!?

スバル

「じ、自分は!まだで、あります!!!」

ビシッ!

なのは

「でも……。」

はやて

「可能性、アリアリや……。」

スバル

「ティアナ……。」

ガシッ!

ティアナ

「チヨッ!?!チヨット!」

私だって、今がイッパイイッパイなんだから!!!」

ブンブンブン!!

フフッ

ゴオオオオオオオオオオ……。

ティアナ~~~~!!

スバル! 離して!!

リニス

「とつても。」

面白くなってきましたた~~~~!!

機動六課、水上練習場

ゴオオオオオオオオオオ……。

ゾクゾクッ!?

ミヤ

「な！何だ！！」

バツ！

フェイト

「まずは私から……！！」

バルディッシュ

『ソニックフォーム』

キイイイイイイイン……！！

ミヤ

「あ……レオタード。」

アイン・ツヴァイ

『お馬鹿！！』

あう……。

ミヤ

「怒られた……。」

ザッ！

フエイト

「はあ！」

チッ！

ミヤ

「エクスカリバーを……！」

え？

アイン

『イヤですよ?』

な!?

フェイト

「バルディッシュユ!」

バルディッシュユ

『ライオットブレード』

ガシャン!

くっ!

ミヤ

「干将・莫耶、トレース・オン!」

カシャン

ガキイイインー！

フェイト

「フフッ、あの頃と同じだね……。」

キギキギキ……！

ミヤ

「今回は、コッチがチャレンジャーか……。」

でも……。

アリシア

「パーティー構成は、違うでしょうー！」

バリバリバリバリ

ミヤ

「アリシアか！？」

フフ……。

え！？

フェイト

「お母ちゃん………」。

ひゅ~~~~~ん

プレシア

「アリシア！！」

サンクス！！

アリシア

「お母ちゃん！！」

ツヴァイ

『コント……』

アイン

『レベルが高い……』

ミヤ

「違つてしょ!?!」

ドッゴオオオオオオオオオオン…………。

ヒュウウウウ…………。

プレシア

「追撃をさせて、もらつわ?」

スッ

闇の深淵にて重苦にもがき蠢く雷よ…………。

ズゴゴゴゴゴゴゴゴゴ…………!

彼の者に驟雨の如く打ち付ける!!

ゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴ

プレシア

「グラビティブレスー!」

.....

Episode 3：ストーリー91【代価と、そのキモチ】

水上練習場、付近

なんや……。

はやて

「フェイトちゃんが“ヤ”ってもうたか……。」

うん……。

なのは

「そうだね……。」

ゴクン……。

スバル

「たっ、たすかった……。」

チツ……。

リニス

「後すこし……だったのに……。」

ボソッ

え……？

ティアナ

「今……何か……。」

え？

リニス

「何も言ってますんよ？。」

アゝハゝ！

ティアナ

「？」

水上練習場

パキャン！！

ミヤ

「ガバツ！？」

ドシャツ！！

アイン

『ミヤ！？』

ツヴァイ

『あわわわ……！！』

フフツ

ミヤ

「ロー・アイアス……何とか……。」

アイン

『でも！怪我を！！』

安心しろ……。

ミヤ

「オレは強大な力を、お前から貰うが……。」

その代わり

ツヴァイ

『そ、その代わり?』

ミヤ

「オレが全部……。」

ダメージをおつかぶる

アイン

『な!?!』

ツヴァイ

『じゃあじゃあ……!』

フッ

ミヤ

「気にすん……な。」

全部オレの自業自得……。

バカ!!

ミヤ

「……!」

ツヴァイ

『はやてちゃんの、言ったとうりのバカです!!』

アイン

『全然ミキヤの時から、成長していませんね?』

だが……。

ミヤ

「キズつくのは、オレだけで充分……。」

はあ……。

アイン

『だから貴方は、バカなんですよ!』

ツヴァイ

『そのとおり!何故私達を頼らないんですか!?!』

ミヤ

「……………」

アイン

『F・テイル……それは融合……。
文字通り、全員が願いを!心を!』

ツヴァイ

『だからこそ、私達を信じて下さい!』

アイン

『でなければ、直ぐにF・テイルをといて下さい!
目を、覚まさせてあげます!』

はあ……。

ミヤ

「流石姉妹……ホントによく似ている。」

ツヴァイ

『じゃあ……！』

あいよ……！

ミヤ

「頼らせてもらっよ……！」

アイン

『では、私の……。』

ああ……。

ミヤ

「エクスカリバー・モルガンとダークキューブ……借りるぜ……！」

ツヴァイ

『私のアイスクューブも〜!!』

はいはい

ミヤ

「あいよ!!」

ガチャン!!

じゃあ……。

ミヤ

「二人とも？」

いくぜえええええええええ!!

はい!!

Episode 3：ストーリー92【やったやったのツウマイ】

機動六課、水上練習場

プレシア

「アラ？……もう諦めたと思ったのに……。」

フン！

ミヤ

「簡単に……諦めると思っか？」

アツチャ

アリシア

「少し加減し過ぎたかな……。
でも……結構ダメージあるぽ？」

ダッてさ！

ミヤ

「アイン……！」

はい!!

アイン

『キュア・プラムス!』

キイイイイイイン……。

ぐっぐっ

フッ

ミヤ

「完治。」

あ~~~~~!!

アリシア

「回復!!」

フフッ

プレシア

「それでこそ、ミヤだわ？」

フフッ

嬉しいの？お母さん……。

プレシア

「アラ？フェイト……さっきのは……大丈夫そうね？」

フェイト

「うっヒドイよ……。」

ほらほら

アリシア

「お姉ちゃんがいるから、ね？」

はい……。

フェイト
「お姉ちゃん……。」

ゴオツ！

ミヤ

「よそ見してんじゃないー！ー！ー！」

ハツ！

フェイト
「あ！？」

ツヴァイ
『クール・ダンセル！ー！』

キーンキーンキーン

へ………？

アイン
『あ。』

アリシア

「あ。」

ズバツ！ズバツ！ズバツ！

ミヤ

「ガバアアアアアアア！？」

ドシャアアアアアアア！！

機動六課、水上練習場

何故!?

アイン

『何で魔法なんかを! ツヴァイ!!』

だつて……。

ツヴァイ

『やっぱり、此処は牽制をしてから……!』

ぐっ、ぐはあ……。

ミヤ

「せつ! せつかく……回復して決めたのに……。」

グスン

ほら！

アイン

『ミヤ！頑張ってください！！』

キュア・プラムス！！

キイイイイイイン

ほら！

ツヴァイ

『頑張ってください！！』

クール・ダンセル！！

ズバツ！ズバツ！ズバツ！

ほ~~~~ら~~~~……………。

頑張ってください~~~~……………。

キイイイイイイン

ズバツ！ズバツ！ズバツ！

キイイイイイイン

ズバツ！ズバツ！ズバツ！

キイイイイイイン

ズバツ！ズバツ！ズバツ！

キイイイイイイン

ズバツ！ズバツ！ズバツ！

パパアアアアアアアアアア！!!???

Episode 3：ストーリー94【主人公は、その……ミヤデス】

水上練習場、付近

フフッ

なのは

「ミヤくん、赤ちゃんみたい!!」

そやな〜〜……。

はやて

「高い高い何て、ちっちゃい頃以来や……。」

ほのぼの〜〜……。

スバル

「わ、私もあなる可能性が……。」

わ……!

ティアナ

「私なんて、スロットでいつとこるの確定よ!？」

うっふっふ

リニス

(さっすがミヤ!期待を裏切りませんね〜)……。

機動六課、水上練習場

ズバツ!ズバツ!ズバツ!

キイイイイイイン

フェイト

「あああ〜)……お!お母さん!??お姉ちゃん!??」

うっん……。

アリシア

「流石に不味いかな?

ねえ!?!お母さま!?!」

フウ……。

プレシア

「仕方ない……さっきのはカッコ……よかったのに、ねえ？」

スッ

マグダラ……。

シュババババババババババ！！

ミヤ

「ぐろう……。」「

ギユツ！！

アイン・ツヴアイ

『あ！？』

グイイイイイイイイ！！

プレシア

「キャッチ&リリース〜〜!」

ピュウウウウウウウウウ

ルールブレイカー

カシャン!!

パキヤン!

アイン

「あ!？」

ツヴァイ

「溶けた!？」

ドシャツ!!

ミヤ

「はひゃ〜……。」「

ザッ

プレシア

「コレが……。」「

ヒュウウウウ……。。

プレシア・テストロッサの力よ……。！

って

フェイト

「それは……。」「

アリシア

「ミヤのセリフ……。」「

だって……。。

プレシア

「私だって、言ってみたいじゃない？」

あ……わたしも……。

じゃあわたしも……!!

ウウウ……グスン

ミヤ

「オレは、オレが……。」

バツ!

主人公だあああああああああ……!!

機動六課

ピポピポ

通路

ダッダッダッダッダッダッ!

ザフィーラ

「患者の容態は!？」

シヤマル

「はい……! 現在、とても危険な状況です!!」

そうか……。

ザフィーラ

「今日も、忙しくなりそうだ……!」

ギイイイイイイ……。

個室

はい！

あ〜ん…………。

はあ…………。

ミヤ

「だから、自分で食べるっつゝに。」

ツヴァイ

「でもですね？」

アイン

「わたし達のせい、じゃないですか…………。」

はあ…………。

ミヤ

「変な所まで、ソックリだなぁ……。」

ザフィーラ

「……………」

お？

ミヤ

「ザフィーラ！どうした？んなどこで、ツッタって……。」

ミヤ……………」

ミヤ

「……………」

シャマル

「……………」

カツカツカツ

ミヤ

「シャ……マ……ル？」

ギリギリギリギリ

はがあ！？

ミヤ

「鼻が！鼻が！鼻が……！！！」

チョット！

バツ！

ツヴァイ

「いくらミヤとの関係に、イッチョウあり！……とは言え。」

アイン

「それは、あんまりかと！」

フフフ

シヤマル

「なかなか、面白い事……言いますね？」

フン！

アイン

「我ら、リインフォー“ズ”を……。」

ツヴァイ

「なめないで下さい……！」

ジャキン……！

くっ……！

シヤマル

（流石に、2対1じゃあブが悪い……。）

かといって、ザフィーラに頼むのは……！（）

チヨットまで……い……い……！

バン！

ツヴァイ

「ああ!？」

アイン

「何奴!!」

ポンポンポンポン……。

桜吹雪が、舞い散る世の中

ヒラヒラヒラヒラ……。

通りすがりの風来坊

ヨッポポポン!!

烈火のシグナムといや〜〜……。

ザッ!

あたしの事だ！！

機動六課、個室

ヒラヒラ……。

ヴィータ

「何で、あたしがこんなのを……。」

おい!!

シグナム

「ヴィータ！契約だぞ!!」

ああ〜……。

ヴィータ

「解ってるよ！パフエ、一週間分!!」

なに!?

ミヤ

「パフェ……一週間……だと。」

バツ！

ミヤ

「バニラか！バニラなのか！？」

ガシッ

ヴィータ

「な！何だ！？」

いいか……。

ミヤ

「バニラアイスクリームとはな……。」

五分経過

であるからして

ミヤ

「バニラが生まれた、彼のクレオパトラ……。」

ああ！

ヴィータ

「いい加減にしろー！」

へ？

ミヤ

「まだまだ、続くぞ？三時間ぐらい……。」

はあ……。

ヴィータ

「もう喋るな……。」

うん？

ミヤ

「仕方ないな……。」

ギャー！ギャー！

なあー

ミヤ

「ザフィーラ、アレって……。」

ウム

ザフィーラ

「テレビの影響だ、江戸時代が……。」

ああハイハイ

ミヤ

「で、ハマった……と。」

ああ……。

ザフィーラ

「その通りだ。」

はあ……。

アイン

「我が極光のサビにしてくれろ……！」

ジャキン！

シグナム

「我が剣……業火にして静……。」

チャキ……。

ツヴァイ

「デバイスファイト……！」

シャマル

「レディー……。」

バツ！

ミヤ

「こんな所で！」

ゴォーすんな~~~~~!!!

機動六課、水上練習場

ヒュウウウウ……………。

シグナム
「……………」

ザッ

アイン
「……………」

ザッ

水上練習場、付近

はい！

ミヤ

「今回のナレーションのミヤですー!」

なのは

「……。」

はやて

「何やねんそれ。」

え……?

ミヤ

「だってさーオレが、此処につてさー……。
初めてじゃん?だからさー……。」

はあ……。

アリサ

「アンタ、相変わらずのバカね?」

アレ?

すずか

「うん……？」

フェイト

「あ！そう言えば……。」

ああ……。

ミヤ

「全員学生仲間、だな？」

あ！

すずか

「うんうん……！」

そういえば……！

なのは

「また、全員が一緒になるなんてね……！」

まあ……。

フエイト

「お母さんの“何処にでもいるドア”……だったっけ？」

ああ……。

ミヤ

「略して、ドドアだ。」

はせて

「ド、ド、ド……。」

あ！

なのは

「ココアみたい!!」

カチャ

ミヤ

「フッ、既に用意済みだ。」

ミヤ……。

はやて

「解ってやった、ネタやな。」

ちあ？

ミヤ

「。……。」

はあ……。

はやて

「ホントに、変わらんや〜ミヤは。」

いやああ

ミヤ

「そんなに。」

はやて

「誉めてないで。」

ミヤ

「早いな。」

はやて

「コレが誉められるっ、っ、っ。事や。」

はっい

ゴクッ

ミヤ

「……。」

ぶっっっ

なのは

「ちよっとな……。」

フヘイト

「苦い？」

スッ

ミヤ

「ホットケーキ。」

アリサ

「アンタ……用意してたでしょ。」

ミヤ

「……。」

さあ？

アリサ

「何で即席しないの!!」

バン！

ミヤ

「まあまあ、とりあえず……食べてみるよ、な。」

パク……。

アリサ

「うん……あ。」

フフッ

すずか

「美味しい!!」

フェイト

「あんまり甘くない……。」

ミヤ

「でもいいだろ?」

はやて

「まあ……ええ仕事してるでしょうっ、やな?」

ミヤ

「……誉めてるのか?それ。」

さあ？

はやて

「どっつなんやるな？」

チツ！

ミヤ

「人の真似を……！」

あ！

なのは

「ああああ！思い出した！！」

フェイト

「どー？どっつしたの？」

ミヤくん……！

ミヤ

「何だ。」

なのは

「コレって、サッカーの時に!！」

フェイト

「サッカー？」

アリサ

「ああサッカー!！」

すずか

「ファイヤートルネード!！」

ああ……。

ミヤ

「あれか……。」

はやて

「アレ？」

なのは

「あの時に食べた……！」

オイオイ

もう十年前にもなるぜ？

Episode 3 : ストーリー98 【問題のサイズ】

機動六課、水上練習場

アハハハハハハ〜〜！！

チラッ

ヴィータ

「楽しそうだな〜〜……。」

アリシア

「どうしたの？」

背が少ない人

な！？

ヴィータ

「テメー何で、フェイトより胸ねーじゃねえか！
この胸無しアリシアー！！」

胸!?

アリシア

「わ!わたしだつて〜!〜!」

ヴァン!

ミヤ

『こちら、水上練習場付近のミヤです。』

アリシア

「な、何よ……。」

ミヤ

『では、かわります……ごじぶ。』

えつと

フェイト

『お姉ちゃん?気にする事無いんだよ?』

そうだ！

ミヤ

『いいじゃないか！ちっぱいで……！必ずしも、でっぱいがいいとい
う訳では……！』

ってー！

ミヤ

『な……何を……！お前ら……！』

ちゅちゅめろ……！！

っあー……！！

ちゅっどめめめめめめめめめめめん……！！

ヴァン！

アリシア

「。……」

ヴィータ
「……………」

ねえ

何だ

アリシア
「はじめよつか。」

ヴィータ
「ああ……………」

Episode 3：ストーリー99【戦いのソードダンス】

機動六課、水上練習場

キンキンキンキン！

ツヴァイ

「アイシクル・エッジ！」

ドシュ！ドシュ！ドシュ！

くっ……！

シヤマル

「クロス・エアレイド！」

ドカンドカンドカンドカンド

ドカンドカンドカンドカンド……！

ギャリン……！

はああああああ!!

ガキャン!

アイン

「やりますね……流石、剣の騎士……。
と、だけありますね?」

ギギギギ……!

シグナム

「夜天の書……いや、リインフォース・アイン……。」

私は越える

それは

アイン

「主はやての為に?それとも……。」

カッ！

シグナム

「どっちもだ！！」

ギャリン！！

アイン

「ならば！マイト・レインフォース！」

キイイイイイイ

シグナム

「ブースト……！」

攻撃強化です……。

アイン

「行きます……！」

ゴオッ！

シグナム
「くっ……！」

水上練習場、付近

プスプス

ミヤ

「うぐぐぐ……。」

アリサ

「……。」

チキン

なのは

「ダメだよ？女の子に、そんなふうには言っちゃ……。」

ミヤ

「お……女の……“子”？」

レイジング・ハート

オーライ

ドシユウ!!

げはあ!?

はやて

「アホや。」

フェイト

「はあ……………」

すずか

「ミヤくんって、ホントに変わらないね?」

それが……………。

はやて

「前ネタ使うな〜!!」

すぱーん!!

ミヤ

「が……！」

ドシヤッ

アリサ

「やっぱりアホね。」

あ！

なのは

「動きだした！！」

アリサ

「えっ？どれどれ？」

ぐずぐず

ミヤ

「うっううう……主人公……」

Episode 3 : ストーリー101 【機動六課のダブルス】

機動六課、水上練習場

シャマル!!

シャマル

「ええ、ヴィータ……。」

スッ

汝、その諷意なる封印の中で安息を得るだろう……。

キイイイイイイ……………。

詠唱!?

アリシア

「コツチも!!」

ツヴァイ

「もう、やってる……！」

汝、美の祝福賜らば我その至宝、紫苑の鎖に……。

キイイイイイイ……。

チツ！

ヴィータ

「やらせるか……！」

バツ！

アリシア

「コツチもね……！」

ゴツ！

ガキイイイイン……！！

ぐうう……。

永遠に傳く……。

固い……！

繋ぎ止めん……！

ヴィータ

「シャマル……！」

アリシア

「ツヴァイ……！」

あ……！

シャマル

「はい……！」

ツヴァイ

「はい……！」

バツ！！

セレスティアルスター！！

バツ！！

アブソリュートゼロ！！

機動六課、水上練習場

キュウン！キュウン！キュウン！キュウン！キュウン！キュウン！

……………。

ビュオオオオオオオオオオオオオオオオオ……………。

ヴィータ

「ぐろう……………」

カキンカキンカキンカキン

アリシア

「天から、ね……………」

キュウン！キュウン！キュウン！キュウン！

おとととと！…

バッ！バッ！バッ！バッ！

シャマル

「ヴィータ！？」

オーディナリイ・シエイプ……。

キイイイイイイン……。

シャマル

「状態回復です……どうですか？」

ヴィータ

「ああ……すまない、シャマル……。」

へっへっ

ツヴァイ

「全部回避したんですか？スゴいですねっ……。」

まあね？

アリシア

「ミヤやお母さま……その他の“あんな人達”の所にいけばねえ」

あんな人達？

アリシア

「まあ、それはオイオイって事で!!」

ツヴァイ

「？」

機動六課、水上練習場

コオオオオオオオ……………。

チラッ

アイン

「あちらは、とりあえず……………」。

フン！

シグナム

「私を前に、よそ見か！！」

バツ！

無駄です！！

ギャリイイイイン！！

シグナム

「くっ……!!」

ザザアアアアア!!

アイン

「今の私は……」。

攻撃のマイト・レインフォース!

防御のガード・レインフォース!

魔力のスペル・レインフォース!」

そして……。

キュア・プラムス!!

キイイイイイイン

シグナム

「体力……回復!?!」

そうです

アイン

「今現在の、私のパラメータは……。」

貴方を上回っています!!

シグナム

「くっ……!!」

ギリ!

アイン

「私を超える”……”ではないのですか?」

ヴァン!

オイオイどくしたよ、シグナム……。

シグナム

「ミ、ヤ?」

ああ〜！

アイン

「助言はルール違反です！！」

ハイハイ

ミヤ

『応援ならいいだろ？』

『現在、勝ってるのお前だし……。』

ま、まあ

アイン

「少しならば……。」「

ミヤ

『フフッ』

Episode 3 : ストーリー104 【助言のミヤ】

機動六課、水上練習場

単独直入でいう

ミヤ

『お前忘れてたろ?』

シグナム

「忘れた?」

トントン

ミヤ

『うっで。』

腕?

チラッ

シグナム
「あ。」

はあ……。

ミヤ

『お前もハーフデバイス、持ってんだぜ？
総合的に互角だ……。』

シグナム

「だが……私は……。」

ああもう！めんどくせ〜！！

ミヤ

『勝ったら“デート”してやる！
コイツでどうだー！』

シグナム

「な！？」

アイン

「な！？」

あ！！！！！

なのは

『抜け駆け！！』

と、とにかく！

ミヤ

『後、ヨロシク！！』

じゃっ！

ヴァン！

シグナム

「……………」

ハッ！

シグナム

「呆けてしまった……………」

フムフム

アイン

「と、言う事は……勝利者が。」

チャキ

シグナム

「……。」

スッ

私もみすみす、手放すつもりもない……。

コオオオオオオオ……。

その“イス”を……手に入る……！！

機動六課、水上練習場

ゴオツ！

アイン

「はああああああ！！」

ザッ！

シグナム

「……………」

もらいます！！

レヴァンティン

レヴァンティン

『イリュージョン・シールド』

ヴウン

はっ！

アイン

「盾などどうします？」

ブン！

スカ……。

アイン

「な！？」

シグナム

「……。」

ミヤの指示どおりだな

カッ！！

ガシャン！！

シグナム

「カートリッジ！行くぞ！！」

レヴァンティン

『ミラージュフォルム！！』

ゴオオオオオオオ！！

アイン

「早く……！！？」

ガチャ！

エクス……！！

シグナム

「遅い！！」

ズバツ！

アイン
「がっ！」

ゴオツ！

シグナム
「続くぞ！」

はあああああ！！

ギャリリリリリリリリリ！！

アイン
「くっくっくっ！！！」

ガガガガガガガガ

グルツ！

シグナム
「紫竜乱閃！！！」

ズバツ！ギヤリリリリリリリ！ズバツ！ギヤリリリリリリリリリ！ズバツ！ギヤリリリリリリリリリ！ズバツ！ギヤリリリリリリリリリ！ズバツ！ギヤリリリリリリリリリ！ズバツ！ギヤリリリリリリリリリ！ズバツ！ギヤリリリリリリリリリ！ズバツ！ギヤリリリリリリリリリ！ズバツ！ギヤリリリリリリリリリ！ズバツ！ギヤリリリリリリリリリ！ズバツ！ギヤリリリリリリリリリ！

ふらふら……。

アイン

「あ……あ……。」

ゴオツ！

アイン

「う、上から……。」

幻刻！……！

ズバアアアアツ……！

ぐはあああああ……！……！……！

ドシャアアアアアアアア！！

シゲナム

「……………」。

シュウウウウウー……。

Episode 3：ストーリー106【油断のタイテキ】

機動六課、水上練習場

シグナム

「フウ……。」

くらっ

シグナム

「む！……ヤハリ多用は、禁物が……。」

キイイイイイイ……。

フフフ

な！？

クルッ

アイン

「あ……甘い……ですな?」

ゲーゲーゲー

イイイイイイン……。

シグナム

「まだ動いて、いけるのか!?!」

今度は……。

アイン

「「うちの……番です……。」

くっ……!

シグナム

「レヴァンティン!!」

レヴァンティン

『ボーゲンフォルム!!』

カシャン！

アハハ

アイン

「今頃チャージでは……。」

こちらには

シグナム

「……………」

ギリリ……！

フム

アイン

「そのまま……解りました。」

いいでしょじ……！

シグナム
「…………。」

ザッ！

アイン
「…………。」

シリ…………。

ヒュウウウウ…………。

シグナム
「ファントムファルケン！！」

ドシューウウウウウウ！！

アイン
「エクスカリバー！！」

ドゴオオオオオオオ！！

機動六課、個室

う、う、う……。。

お！目………覚めたか？

シグナム

「ここは……。」

ミヤ

「オレの部屋さ、シグナム姫？」

他の

シグナム

「ヴァイータやシャマルたちは……？」

ああ？

ミヤ

「ああ……タイムアップ。」

た、たいむあつぷ？

ミヤ

「説明してやる、ハッキリ言ってアリシア&ツヴァイコンビが優勢だった……が。」

シグナム

「が？」

ミヤ

「シャマルの回復でリスタート、持久戦になってない……。アインがいれば、確実に勝っていたのにね……。」「

シグナム

「そうか……！」

ふうくん？

ミヤ

「勝って無いんだぞ？」

シグナム

「負けてはいないだろ？」

ハハハ

ミヤ

「シグナム……ちょっと、変わった？」

シグナム

「お前は……あまり変わらないな？」

ハハハ

ミヤ

「こりゃ手厳し！」

「……これでも、結構“落ち着いて来た”んだがな……」

む？

シグナム

「落ち着く？」

ああ……。

ミヤ

「知っ
ての通り、オレは……。」

シリーズ01【コクトウ】

シリーズ02【トウノ】

シリーズ03【エミヤ】

そして

クライド・ハラオウン

ティード・ランスター

ミヤ

「が、入り交じっている。」

機動六課、個室

でー

ミヤ

「今にいたる……と。」

フウ……。

シグナム

「全て、F・テイルと……。」

そ

ミヤ

「グレイトファザーMの……おかげ？」

シグナム

「だが、グレイトファザーMは……。」

ああ……。

ミヤ

「未だに、その存在がー……。
つて、ヤツだ。」

ふあ

ミヤ

「むじやむじや……。」

フム

シグナム

「M……お前に指示を出して、此処までのモノを作り上げる……。」

もしかして！

シグナム

「ヤツは、アルハザード出身か！？
どう思うっ？ミ……ヤ……。」

スースー

ミヤ

「むじゅ……。」

寝たのか？

シグナム

「……………」

フッ

Episode 3：ストーリー109【その安らぎのサキII】

機動六課、個室

プシュー

シグナムく起きたんか

ミヤ

「……。」

あ！主はやて……。

チッ！まさかタイムアップとは……！

パシッ！

まあ……次は？って、事ですね？ヴィータ……。

ミヤ

「……。」

あ？

どうしたの？なのは……あ！

ミヤ

「……。」

フフツ、寝てる

疲れたんだろう……。

でも、なんでシグナムが此処に？

あ、ああ……それは……。

ミヤ

(声が、聞こえる。)

アハハハハハハ……。

ミヤ

(何処か、懐かしい声。)

ミヤくん……。

そっ

ミヤ

(あったかい、手。)

今はおやすみ……。

そして、オレは……。

元神魔王リリカルなのは外伝

《デルタソウルダイバース》

Episode 3 覚醒

End

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6637w/>

元神魔王リリカルなのは外伝《デルタソウルダイバーズ》Episode 3 覚

2011年10月9日19時24分発行